

1977年(昭和52年)10月より航空自衛隊の「支援戦闘機」としてF-1が配備されるが、後継機となる次期支援戦闘機(FS-X)の検討は早くも1981年(昭和56年)に始まった。開発当初からの計画とはいえ、T-2練習機を発展開発した「そこそこの」性能となるF-1に対し、次世代機開発の際には世界最高水準の戦闘機開発が期待された。

防衛庁(当時)技術本部(技本)では1972年ごろから将来の戦闘機開発に必要となる技術として、複合材究、戦闘機形状、運動能力向上航空機(CCV)、将来火器管制装置、戦闘機搭載用コンピュータ、RCS低減(ステルス)形状、などの研究が10年余りの間に進められた。

これらの研究は1980年台半ばには次世代戦闘機の国内開発の基礎技術としてまとまっていく。1984年(昭和59年)12月に防衛庁は関係参事官会議にて「航空自衛隊の次期支援戦闘機FS-Xを国内開発するための技術的な可能性を今後1年に渡って検討する」方針を定めた。1985年(昭和60年)1月27日、航空幕僚長より技本部長に対し下記のような運用要求を示され国内開発の可否検討の依頼があった。

- 空対艦誘導弾4発の装備状態で戦闘行動半径450海里(810km)を有すること。
- 短距離空対空誘導弾と中距離空対空誘導弾をそれぞれ2~4発装備できること。
- 全天候運用能力を有すること。
- 高度な電子戦能力を有すること。

早くも4月1日には「エンジンを除き技術的に可能」との中間報告を受け、9月には正式な報告書として空幕長に提出された。

国内開発の機運が空幕・技本内部でも高まる中、国内航空機産業界も大きな期待を寄せ、経団連や通商産業省(現:経済産業省)も後押しする。三菱重工・川崎重工はそれぞれFS-X開発案を作成。防衛庁内の国内開発推進派も、それまでの技術研究成果を踏まえてこれに同調した。

時を同じく海外メーカーもFS-X開発を注視し、英・独・伊の各国が採用しているトーンード攻撃機を製造するパナビア、米海軍F/A-18を製造するマクダネルダグラス、米空軍F-16C戦闘機を製造するジェネラルダイナミクス(以下GD/現ロッキード・マーチン)、同機のエンジンを製造するジェネラルエレクトリックが同年秋より相次いで来日。防衛庁を訪問する。これに対し三菱・川崎に富士重工(現SUBARU)を加えた国内3大航空機メーカーを中心として国内開発の必要性を政府のみならずメディアを通じて世論に訴えた。

対して米国では、日米貿易摩擦の不満が高まる政府、連邦議員、産業界首脳からの圧力的な言動が伝えられる。当時の米国にとって対日貿易が恒常的に赤字(日本から見ると黒字)となり、日本市場の開鎖性は米企業の参入を妨げていると批判が高まり「ジャパンバッシング」が起きていた。

当初は「日米間で防衛と貿易とを絡ませない」と発言していた米国国防長官も「日米の運用共通性を鑑みれば米国機の輸入か共同開発が最良」とほめめかす。この動きを受ける形で1986年4月に東京で、9月にアメリカで日米防衛首脳会議がおこなわれ、またその前後でも海外勢の機体提案やレーダーシステムの新たな参入希望など、米国側の参入が匂わされた。同年12月13日に米国に派遣された防衛参事官ら調査団の名称は「FS-X共同開発調査チーム」となり、果たしてこの調査団の報告を踏まえ26日に開かれた政府の安全保障会議においてはそれまで記された「国内開発」の文言が「開発」に改められた。ここで事実上、日本が米国の圧力を受け入れ共同開発を前提に進めることが明確となる。

翌1987年においても先述の3社4機種(先述3機にF-15が加わる)の提案を引き

続き受け検討を重ね、同年10月21日に防衛庁は「F-16を改造開発する」方針を決定した。この後に公表された資料ではF-16Cからの変更点として

- 世界初のフェイズド・アレイ・レーダーを搭載することで機種形状の変更
- バード・ストライクを考慮しキャノピーを強化型とする
- CCV(Control Configured Vehicle:運動能力向上機)としてインテイク下面にカナード(前尾翼)を設ける
- 主翼面積の拡大と一体成形複合材の採用。これを含む新素材採用/加工技術によるステルス性向上
- 胴体の延長と胴体/尾翼の先進複合材料および先進構造技術の適用
- エンジンを推力増加型に変更

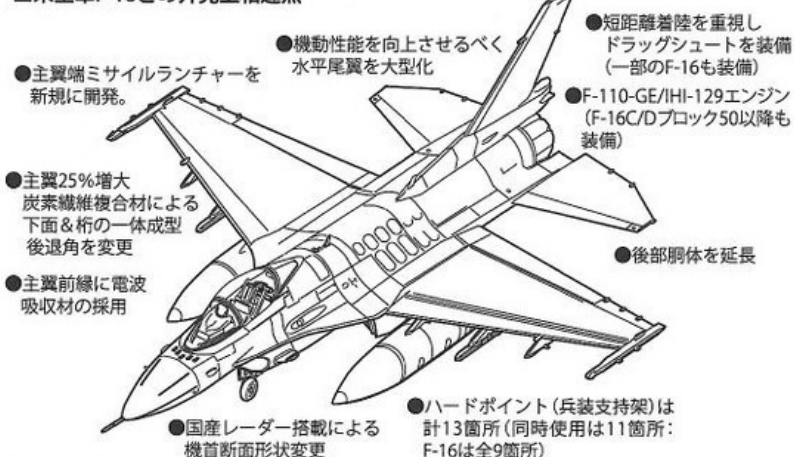
これらが、F-16改造開発との決定が公にされてから程なく出されたことから、水面下では以前から企画が進められていただろうと考えられる。

これで開発が始まるということにはならず、技術的・事務的側面での折衝が続く。1989年(平成元年)1月に日米での技術ライセンス契約の仮調印がなされた後にも米上院・政府内にて共同開発の見直し・技術移転の反対論が高まる。2月に三菱重工・GD両社の共同開発の基本的合意が持たれた後に日米政府間での最終合意内容は「エンジンのライセンス生産の了承」を得たが「F-16の飛行制御用コンピュータ・ソフトウェア(ソースコード)は供与しない」「生産段階での米側ワークシェアを最大限に確保」「日本側技術の対米供与を保証」と、日本側の大幅な譲歩が目立ち、日本国内では「不平等条約だ」との声も上がった。一方米上院議会ではこの段階においてもエンジン技術供与への反対案を決議。大統領が拒否権を発動するも連邦法による修正再評決があり、9月ようやく決着を見る。

■形状比較



■米空軍F-16との外見上相違点



1990年(平成2年)3月30日に主契約者となる三菱重工の大江工場に「次期支援戦闘機設計チーム」が発足。この半年前より「準備チーム」として結成されていた三菱・川崎・富士の三社の技術者に来日したGD技術者達が加わり本格的な設計に着手した。日米の技術力と開発マネジメントの調和のみならず言語と開発体制の違い、物の考え方や文化的背景の違いから生じるギャップを埋めるべくコミュニケーションにも注意が払われた。

F-16シリーズの初期型であるA型は、軽量の制空戦闘機としてレーダーも備えず単価を抑えることで運動性の優れた多数機で侵襲する敵機を迎撃することを想定していたが、その後の能力向上計画によりレーダーを搭載し戦闘爆撃機へと進化。さらに操縦システムを含め全ての機器がデジタル化されたのがF-16Cブロック40と呼ばれる機体で、これがFS-Xのベースとなった。F-16の優れた性能を生み出す形状的特徴が

●胴体断面形状において胴体上部から主翼にかけなだらかな曲面でつながる「ブレンデッド・ウイング・ボディ」

●平面上において主翼前縁ラインが胴体側面につながる前に機首に向かってなだらかに前方へ伸び機首に溶け込んでいく「ストレーク」

●胴体下にある空気取り入れ口
にあると考え、これを踏襲することで、新形状を採用する際の風洞試験などの時間と経費を節約しようと考えた。このベースの優れた性能を損なわずに、さらに対艦能力を追加することが求められた。

GD側からのF-16に関する資料開示は制約があり、基礎的な各種指標は手に入るが基本形状の計算根拠資料などはGDが会社として保管しておらず、当時の担当技術者が個人で有しているなど日本側が戸惑うこともあったが、結果としてライセンス供与データや提案書を参考にしながら、日本側があらためて諸元・形状を設定しての設計となった。これは新規開発の方がやり易かったのではないとも言われた。

要求される兵器搭載量と航続距離を実現すべく導かれた主翼面積はF-16と比較し25%の面積増となる。主翼にはCFRP(炭素繊維強化プラスチック)を用いるが、特筆的なのは下面外板と構造材(内部の桁)とを一体成形したことにある。また素材としても、繊維状の強化材料を3次的に織り込みあらゆる方向への強度を高めた複合材となっており、強度研究から繊維材の製織法、これに対する樹脂含浸・硬化技術と金型技術、温度プロセス、保圧技術ならびに低粘度樹脂の新規採用におよび、また成形加工技術においても研究がなされたものである。この複合材はフラップ/尾翼などの舵面ならびに前部胴体の一部外板にも用いられている。

F-16は操縦システムにフライ・バイ・ワイヤ(操縦桿の動作を電子信号が受け動翼の作動を指示する)を採用した初の実用機で、またデジタル信号に変換することでコンピュータによる補正が容易になり運動能力向上機(CCV)が施されている。これらのソフトウェアは提供されなかったが、日本側もT-2でのCCV研究を終えており、開発側に心配はなかったという。CCVによる従来にない機動をするために必要とされたカナードだが、重量と空気抵抗の増大を懸念、また機体の姿勢制御と同様に起動できることが判り省かれることとなる。

また機体のステルス性を高めるため、主翼前縁に国産の電波吸収材を用いる。

搭載する電子機器は日本の先端技術を集めた独自の最新装備が中核を占めた。J/APG-1アクティブ・フェイズドアレイ・レーダーは従来のようにアンテナを機械的に動かすのではなく、多数の素子が個別に送信と受信を瞬時に繰り返し、その方向はコンピュータで制御される。これにより広い範囲にわたり高速かつ複数目標の同時処理やルックダウン/シュートダウン(自身より低空を移動する目標と交戦する能力)も有した。当時は各国で研究が始まったばかりで、本機は初めてこの装備を有する戦闘機となった。

また電子戦闘連装備として、統合電子戦システム(IEWS: Integrated Electronic War System)と先進干渉防止装置(AIBU: Advanced Interface Blanking Unit)が装備された。これにより脅威警戒と識別、目標/脅威の評価と脅威対抗実施が即座に可能となる。

エンジンはF-16Cブロック40が搭載するものより出力を増強し、低高度での燃費に優れることから同ブロック50/52が搭載することとなったジェネラル・エレクトリック製F110-GE-129を選定、石川島播磨重工(IHI)がF110-IHI-129としてライセンス生産をおこなう。

1995年(平成7年)1月12日に試作1号機がロールアウト、10月に初飛行をおこない12月の閣議においてFS-Xを「F-2支援戦闘機」として量産に着手する方針を決定する。翌年より4機のF-2試作機による飛行試験は計1170回を重ね、2000年(平成12年)に防衛庁長官による部隊使用承認を受け量産初号機が納入。青森県三沢基地に臨時F-2飛行隊を編成する。翌13年に実施部隊として第3飛行隊が編成。平成16年に第6飛行隊、20年に第8飛行隊に配備される。複座型となるB型も平成14年に臨時教育F-2飛行隊が編成され、翌16年には第21飛行隊がT-2からF-2Bへと機種更新を完了する。当初予定より減数したものの、単座型F-2Aが62機、複座型F-2Bが32機、両型の試作4機を含め総計98機が製造された。なお21世紀に入り防衛省は

要撃と支援の区別を廃止し、全機種をマルチロールファイター(多用途戦闘機)とする方針を発表。2005年に改定された防衛大綱にて正式に要撃機と支援戦闘機の区別を廃止した。

総じてこのプロジェクトは三菱の主任設計者をして「平屋を二階建てにするようなもの」と言わしめた。単純に2階を建て増せば良いものではない。既存の平屋部分の柱を太くし筋交いを増やし、配線配管を新たに引き込みさらには基礎まで補強する必要がある。この例えの通りF-16からFS-Xへの外見はおおよその変更はなくても、構造部分から各システムまで相当の再設計がなされ、実に95%近くが新規の設計図により造られた。これらの多くは先述した1980年代における技術研究の蓄積と実証化が結実したものである。「政治に翻弄された」「日米経済摩擦の落とし子」といった揶揄もあったが、地道に培った技術を制約の中で最大限に凝縮し、世界的にも一級の戦闘機が出来たことは「平成の零戦」の名に相応しいと考える。

当初より日米の政治問題としても報道された経緯もあって、本機にはネガティブなイメージがメディアによって生まれていた。試作機完成前後より「先進技術を諦めた」「主翼構造材に亀裂が見つかった」などとの報道もあったが、前者はカナードを省いたことによる誤解、後者はもともと強度試験機での事象であり飛行試験機が完成する前に改善されていたものである。配備後も機体やレーダーなどのアビオニクス類に不具合が見られたが、数年をかけて対策・改良を施し解消していった。生産が終了した現在においても、試作機4機が岐阜基地の飛行開発実験団に配備され能力向上/技術的追認の試験が続いている。

F-2の開発以降より開発装備された国産中射程空対空ミサイルAAM-4の運用能力付与はハード/ソフト両方のアップデートとなり、J/APG-1レーダーは探知能力を大幅にアップしたJ/APG-2へと進化した。短射程空対空ミサイルもAAM-5の運用が進められている。

また戦域状況の認識能力/データ通信システム向上策として自衛隊デジタル通信システム(JADGE)の搭載が進められたが、今後は米軍/NATO軍ならびに自衛隊では早期警戒機や艦艇が使用するリンク16/TADIL Jを搭載し、「ネットワーク機能の強化」や「新型対艦ミサイルの統合運用」に重点が置かれた改修を実施することになっている。これら積極的なシステムアップデートも、基本的ソフトウェアの国内開発によるところが大きい。

参考:
航空自衛隊F-2 最新版(イカロス出版:2014年)
主任設計者が明かすF-2戦闘機開発
(神田國一[著]/並木書房:2018年)

パーツリスト

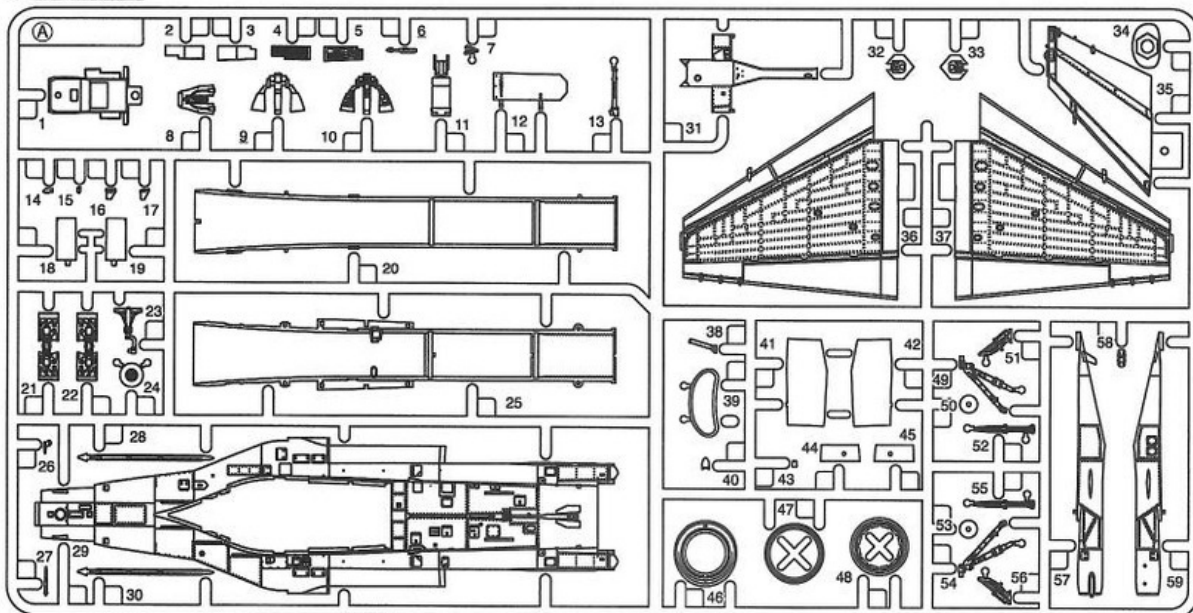
パーツを切り離す前に下の図と各ランナーを見比べ、パーツの不足や破損がないかを確認してください。

Check the contents missing or/and defective shape with reference to the parts drawing shown below.

部のパーツは使用しません。

Parts not for use.
Nicht verwenden
Non utilisées

A ランナー
Tree



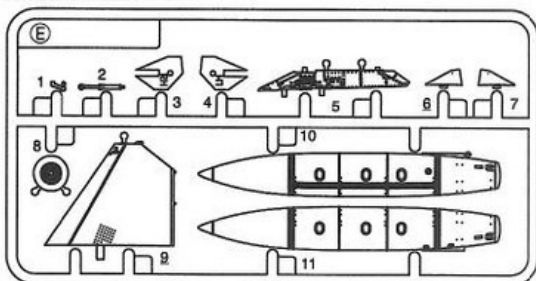
C ランナー
Tree



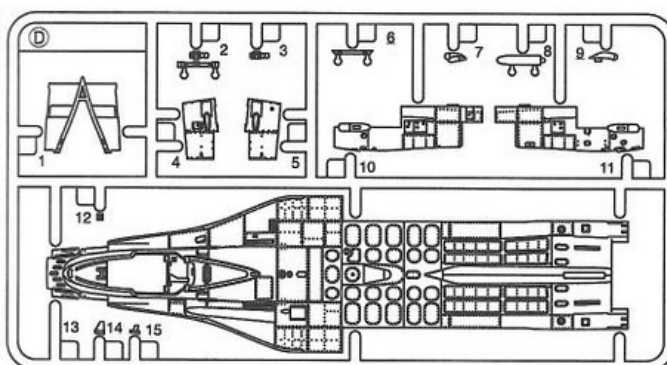
ボルト、ナット
Bolt, Nut



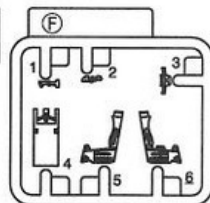
E ランナー
Tree x2



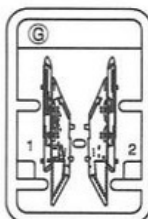
D ランナー
Tree



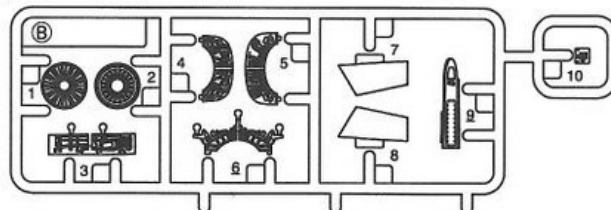
F ランナー
Tree



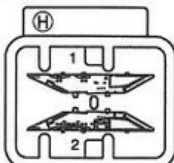
G ランナー
Tree



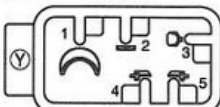
B ランナー
Tree



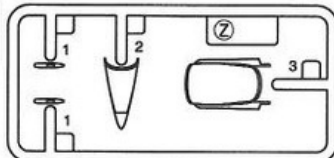
H ランナー
Tree



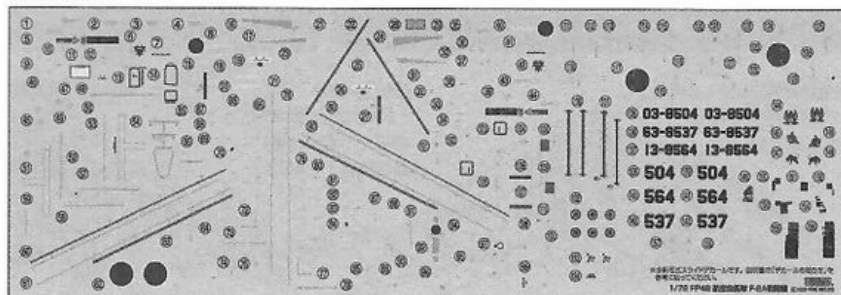
Y ランナー
Tree



Z ランナー
Tree



デカール
Decal



※製造には万全の注意を払っておりますが、万一製造上の不良部品が内包した際はご購入日とご購入店様名をお書き添えの上、不良箇所を撮影した画像を電子メールで、または不良部品の写真を郵送にて当社へお送りください(製品全てをお送り頂く必要はございません)。代替部品と送料分の切手をお送りします。〒441-3301 愛知県豊橋市老津町的場53-2 (有)ファインモールド

作る前にお読みください

- この製品は組み立てモデルです。あらかじめ本説明書の全工程に目を通し、組立工程ごとにイラストを見ながら部品の取り付け位置を事前に確認して組み立て作業を進めてください。
- 本製品には接着剤と塗料は付属していません。プラスチックモデル専用の接着剤と塗料を別途お買い求めください。
- カッターナイフや模型用ニッパー、ピンセット、をご用意ください。
- 各部の塗装はGSIクレオス・Mr.カラーの番号を□内の数字で、続けて色名を表示しています。水性ホビーカラーやアクリジョン、タミヤカラーやガイアカラーを使用する場合は、「カラーナンバー対応表」を参照ください。

This is an unassembled model kit. Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. Check the position of the installation before installing parts following the illustration. Cement and paints are not included in the kit. Side cutters, modeling knife, and tweezers are also required for assembly. Please carefully use tweezers for the installation of small parts. The boxed numbers in each illustration refer to the number of "Mr. COLOR" from GSI Creos. Please also check the color reference.

注意 ちゅうい

本製品は玩具ではありません。対象年齢15歳以上の組み立てモデルです。作る前にこの組立説明書をよくお読みください。

1. 部品を取り出した後のビニール袋は放置しないでください。子供が頭から被ったり飲み込むと窒息の恐れがあります。
2. 部品はきれいに切り取り、切り取った後の不要部分や切り取りクズは部品の入っていたビニール袋と共に「プラスチックごみ」として、お住まいの地域のルールに従って処分してください。
3. 尖っている部品があります。お子様の手の届く所に放置しないでください。他の用途には絶対に使わないでください。
4. 特に小さいお子様のいる家庭では部品や部品切り取り後の不要部、ビニール袋等を誤って飲み込まない様に注意してください。小さなお子様が側にいる、もしくは出入りする環境での作業や放置はおやめください。
5. 組み立ての際、ニッパー・ナイフ等を不用意に取り扱うと刃先で怪我をする恐れがあります。注意してください。
6. 接着剤、塗料を使用する場合は下記に注意してください。
 - 中毒の恐れがあるので閉めきった室内では使用しない。
 - 引火の恐れがあるので火の近くで使用しない。
 - 接着剤・塗料は目や口に入れない。誤って入れたときはすぐに大量の水で洗い流し医師に相談すること。
7. 工具・接着剤・塗料等を使用する前には、それぞれの説明書に記載の注意事項をよく読み、正しく使用してください。

CAUTION MAKE SURE TO READ THE INSTRUCTIONS BEFORE ASSEMBLING.

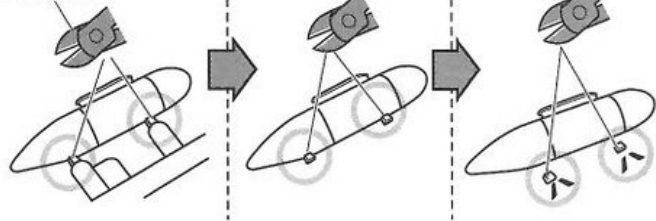
THIS IS NOT A TOY! This model kit is suitable for age 10 to adult. When assembled by children aged 14 or younger, it is recommended that an adult, who has read the instructions, supervise the process.

1. This is an unassembled kit. Read the instructions before assembling. 2. Tear up and discard the plastic bags containing kit parts as children may accidentally hurt themselves by swallowing or suffocate by putting the bags over their head. 3. After preparing the parts by cutting, please dispose of the waste properly. 4. Don't play with the parts because some parts have sharp points. Exercise caution and care when assembled with infants in nearby vicinity. 5. Keep all parts out of reach of small children. Children must not be allowed to put any parts in their mouth, or pull plastic bags over their head (risk of suffocation). 6. Assembly involves the use of tools including knives. Extra care should be taken to avoid personal injury. 7. Take the following precautions when using adhesives and / or paints: Don't use in a closed room to avoid poisoning / intoxication. Don't use near fire (risk of flammability). Avoid contact with either your eyes or mouth. In case of accidental contact, rinse with large amounts of water and consult a doctor. 8. Read and follow the instructions supplied for the tools, the cement and the paints when used for assembly.

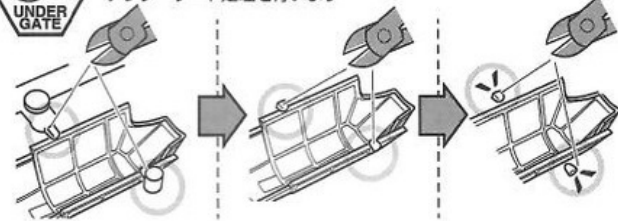
■パーツの切り取り方 To remove parts from tree

※ランナー（枠）から各パーツを切り離した際に突起が残った時は、カッターや模型用ヤスリ等で取り除いてください。

模型用ニッパー
Side Cutters



●部番に左記アイコンが併記された部品はアンダーゲート処理を行います

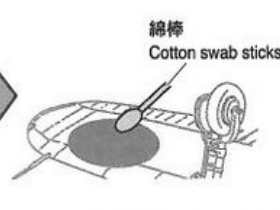
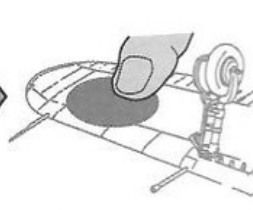
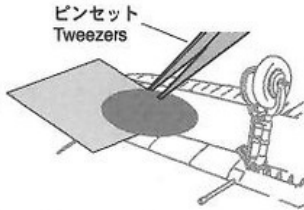
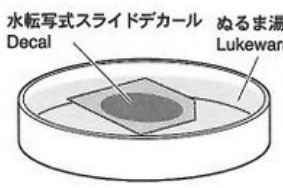


■水転写式スライドデカールの貼り方 Decal Application



1. 1回に必要なマークのみを台紙と共にハサミで切り抜きます。
2. 切り出したマークを10秒から20秒程度ぬるま湯に浸してから引き上げます。
3. 貼りたい位置にマークを台紙ごと移動し、マークをずらすにモデルに移します。
4. 濡らした指などでずらしながら正しい位置に動かします。
5. 位置が決まったら、柔らかい布や綿棒などで気泡と水分を押し出すようにマークを固定します。（力を入れすぎるとマーク全体が移動するので注意）
6. 曲面や凹凸部にマークを密着させる際は、GSIクレオス製Mr.マークソフターを使用し、綿棒などで慎重に作業します。貼ったマークは乾いて固着するまで触れないでください。（マークソフター本体の取扱説明も参照ください）

1. Cut off each decal mark from the sheet.
2. Dip the mark into lukewarm water for about 15 seconds.
3. Place the mark in position, and slide it off the base paper and onto the model.
4. Move decal into position by wetting the decal with finger.
5. To push out excess water and air bubbles under mark, Press the decal gently with a soft cloth or cotton swab sticks.
6. Use a hot steaming towel or decal softener to mold decal over sculpted or nonflat surface.
7. Do not touch the decal until it has become dry and firmly attached to model.



ディテールアップ パーツ（別売り）

※価格は販売店様へお問い
合わせください

DETAIL-UP PARTS
NOT INCLUDED,
SOLD SEPARATELY

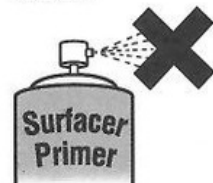


別売りのディテールアップパーツを取り付ける場合は、組立図中に左記マークのある段階でおこないます。取り扱い方法の詳細はディテールアップパーツ製品に封入された組立説明書を参照してください。

Installs Detail-Up Parts at the step indicated the left mark if you would like to do.

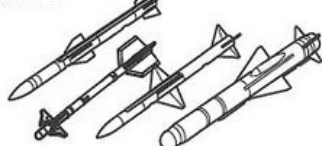
注意

サーフェイサー/プライマーの使用はお控え
ください



パネルライン、リベット等の繊細な彫刻がサーフェイサーにより埋もれる可能性があります。

航空自衛隊 ミサイルセット
（プラスチックパーツ）
製品番号：FP39



Japan Air Self-Defence Force Missile Set
(Plastic parts) ITEM No. FP39

航空自衛隊
F-2用ピトー管セット
（真ちゅう製挽き物）
製品番号：AA53



Pitot Tube & AOA Probes for
JASDF F-2A / F-2B
(Brass parts) ITEM No. AA53

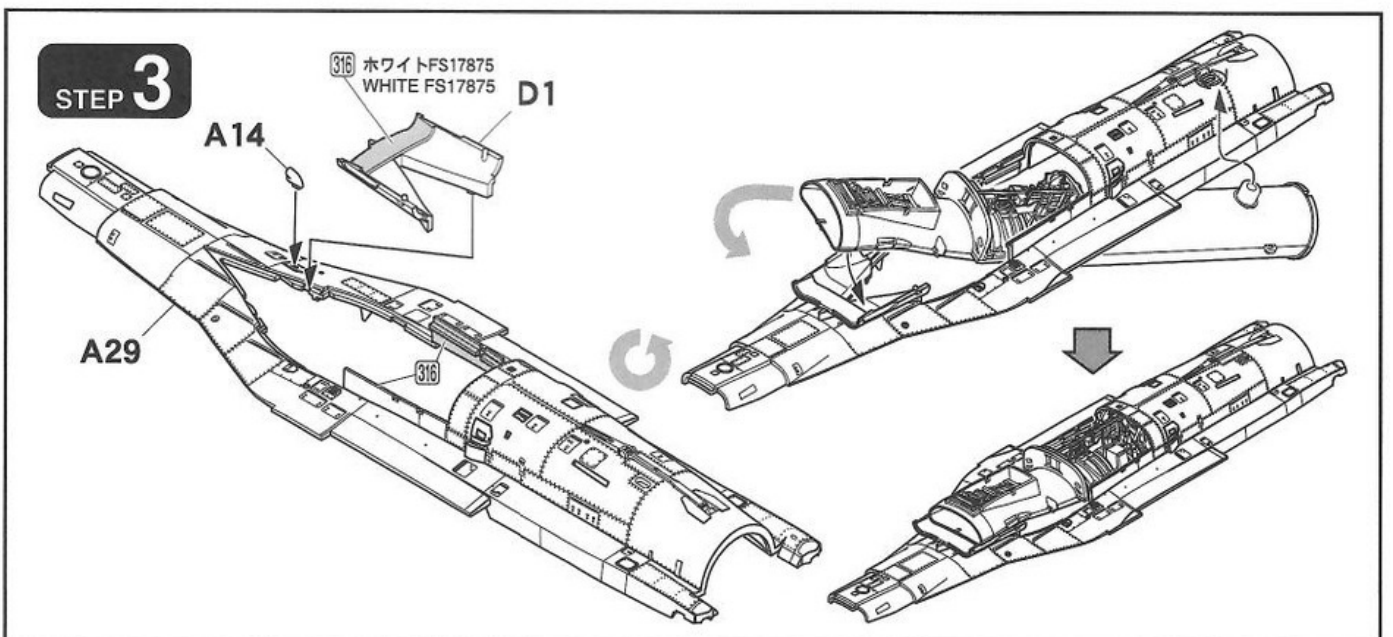
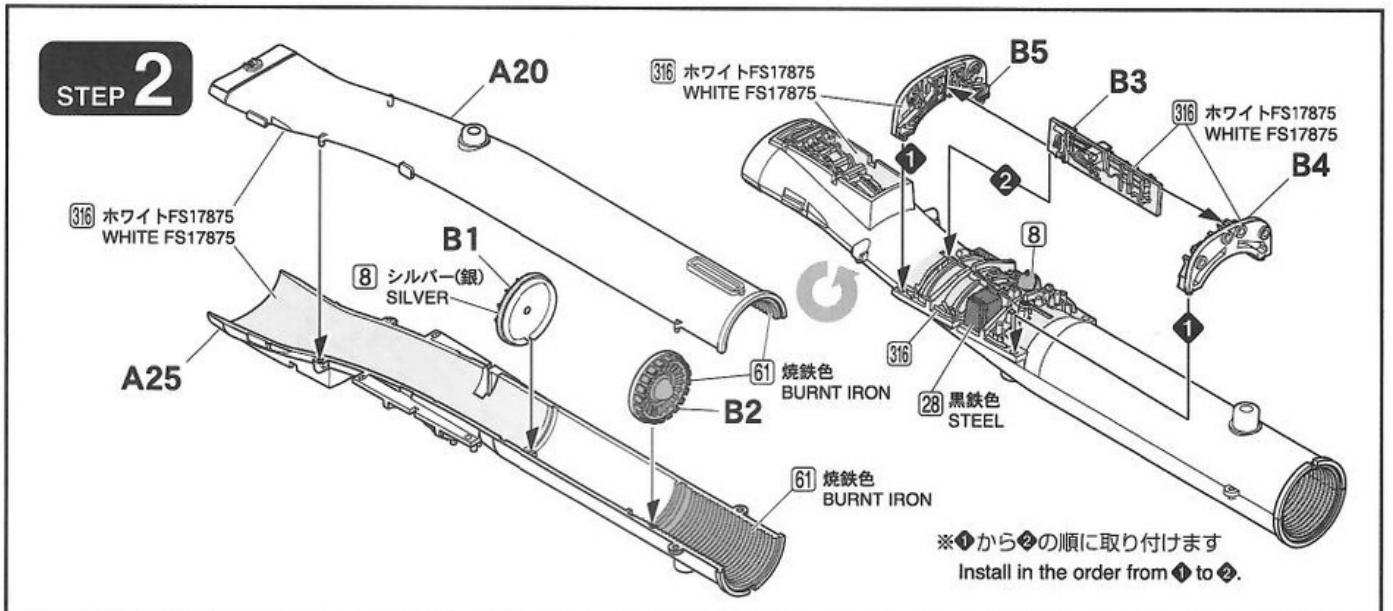
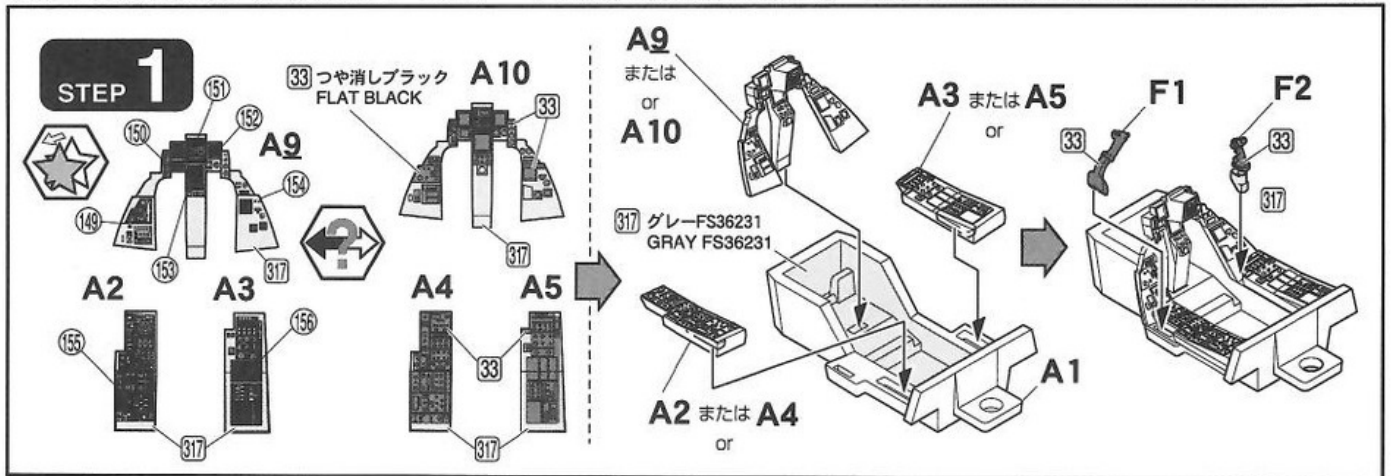
現用機用シートベルト 2
（F-15-F-16）
（プラスチックパーツ）
製品番号：NA8



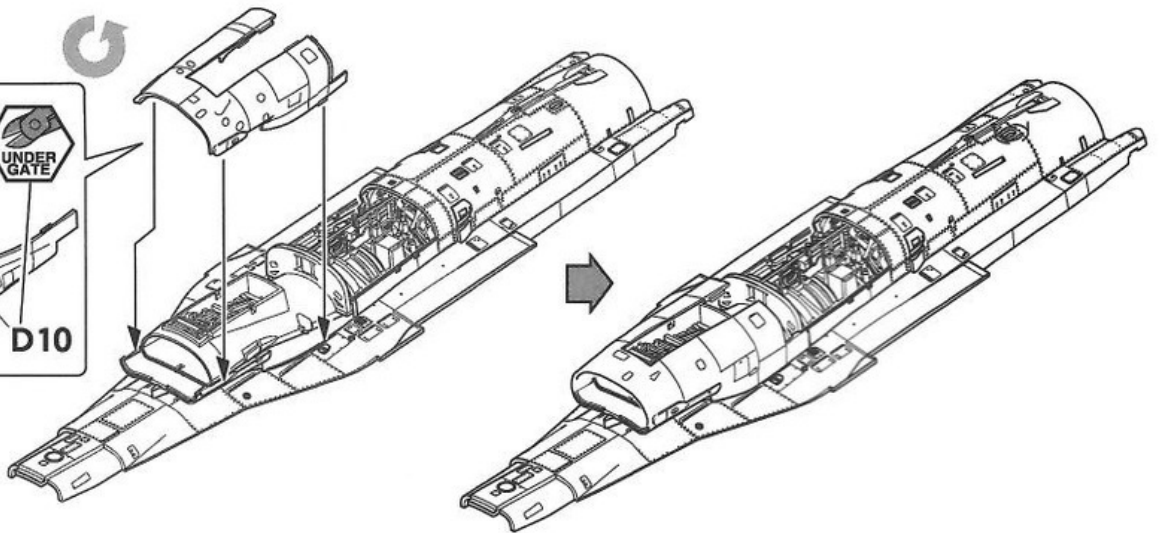
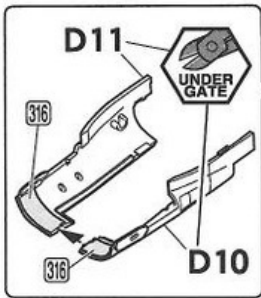
Modern Aircraft Seatbelt Set #2
for F-15, F-16 Series (Plastic parts)
ITEM No. NA8

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 接着します
Glue
Kleben
Coller | はめ込みます
Fitting
Anprobe
Aller | 接着しません
Don't glue
Nicht kleben
Ne pas coller | 切り取ります
Remove
Entfernen
Enlever | どちらか選びます
Optional
Wahlweise
Facultatif | 穴を開けます
Make a hole
Loch bohren
Faire un trou |
| アンダーゲートを処理します
Remove under gate
Entfernen unter den Toren
Enlever sous les portes | 瞬間接着剤を使用します
Use Cyanacrylate (Superglue)
Sekundenkleber
Colle rapide | 注意します
Attention
Aufmerksamkeit
Faire attention | ○数字で指示した水転写デカールを貼ります
Number of decal to soak and apply
Abziehbild in Wasser einweichen und anbringen
Mouiller et appliquer les décalcomanies | 穴を埋めます
File hole
Füllen Sie das Loch
Remplir le trou | |

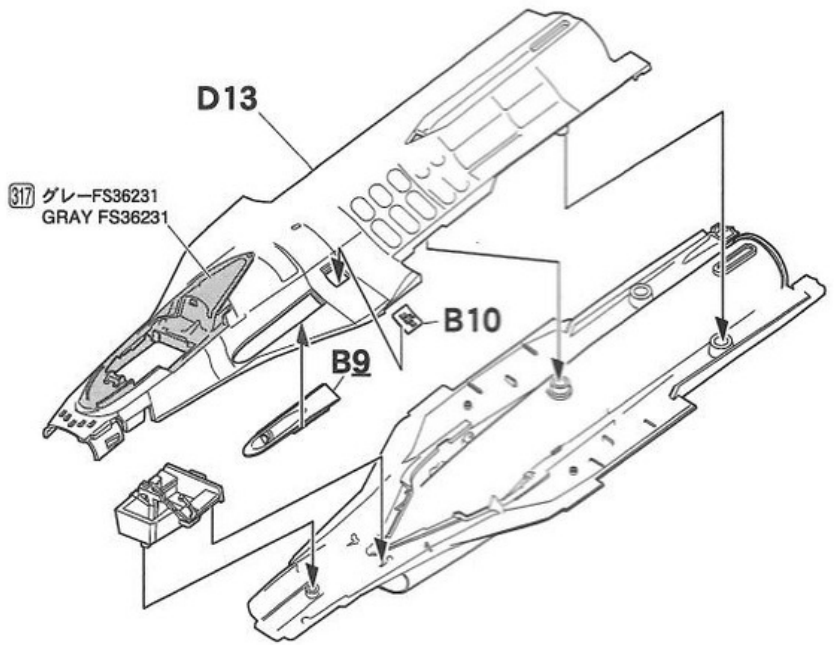
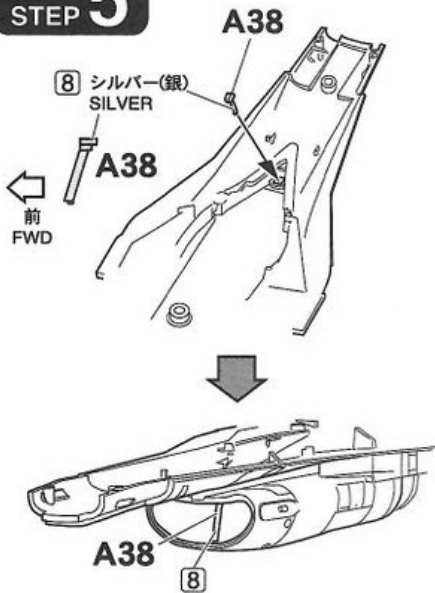
組立図中で塗装指示の無いものは「塗装とマーキング」ページで説明する機体色で塗装します。 Paint all parts body color except other color is specified.



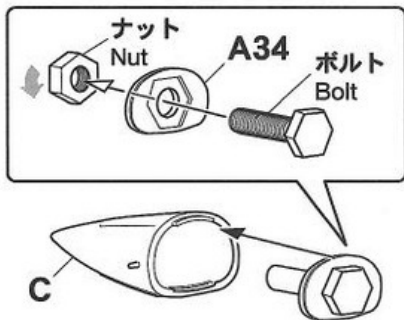
STEP 4



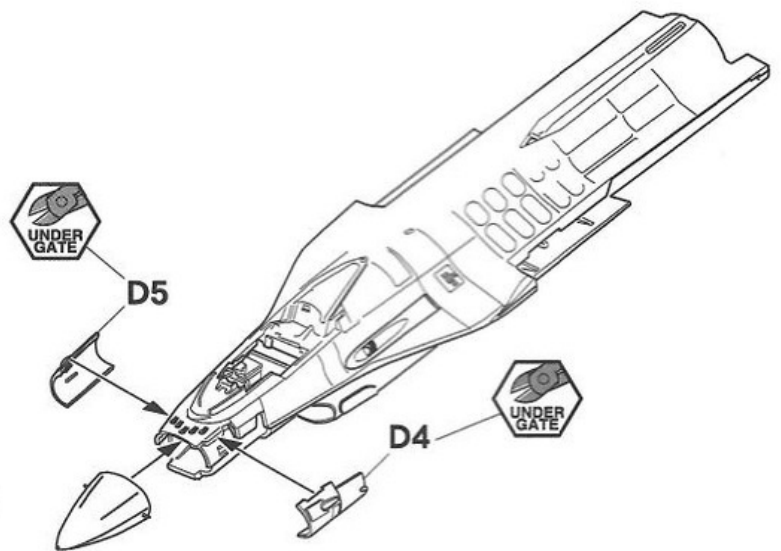
STEP 5

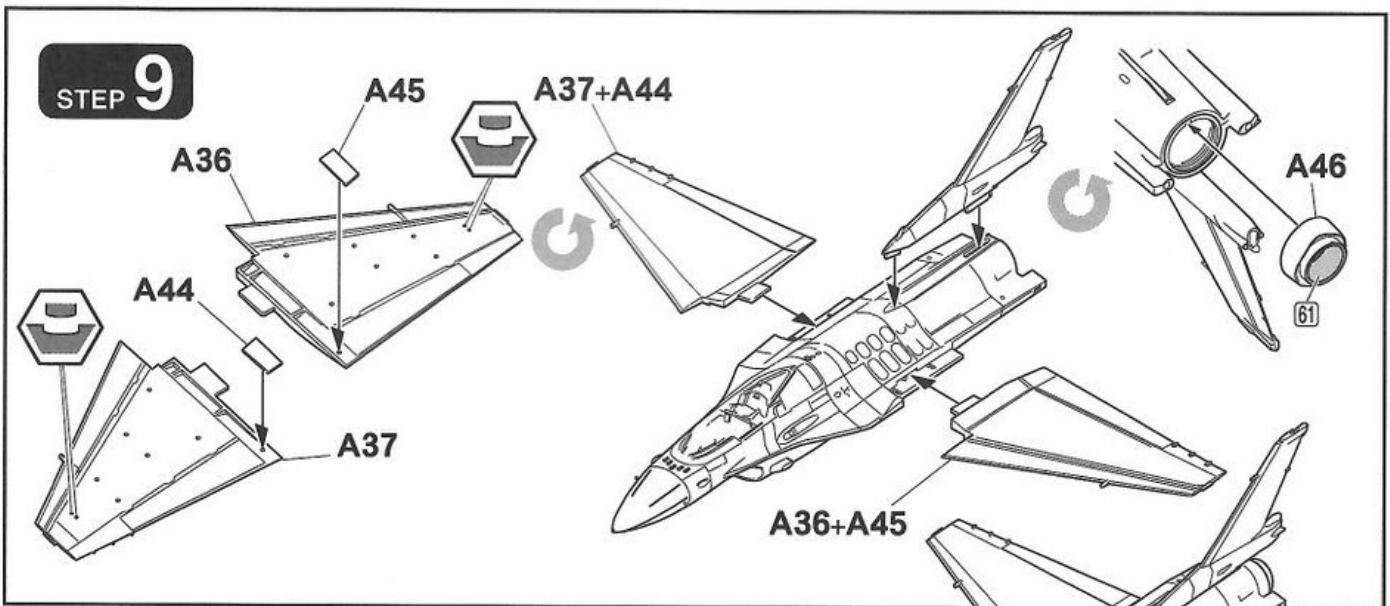
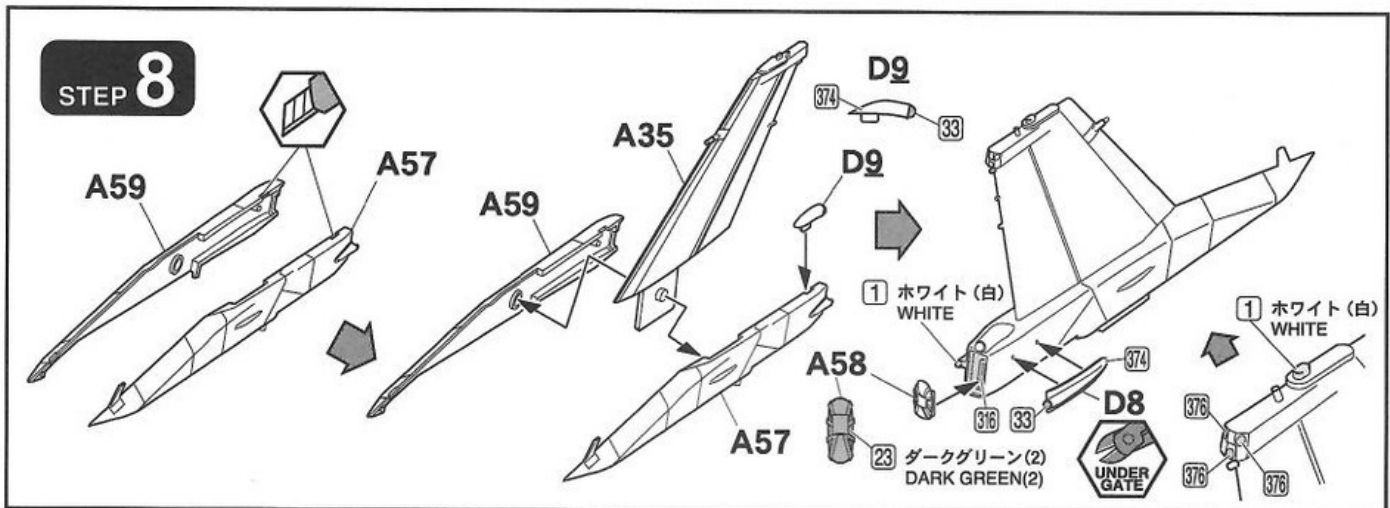
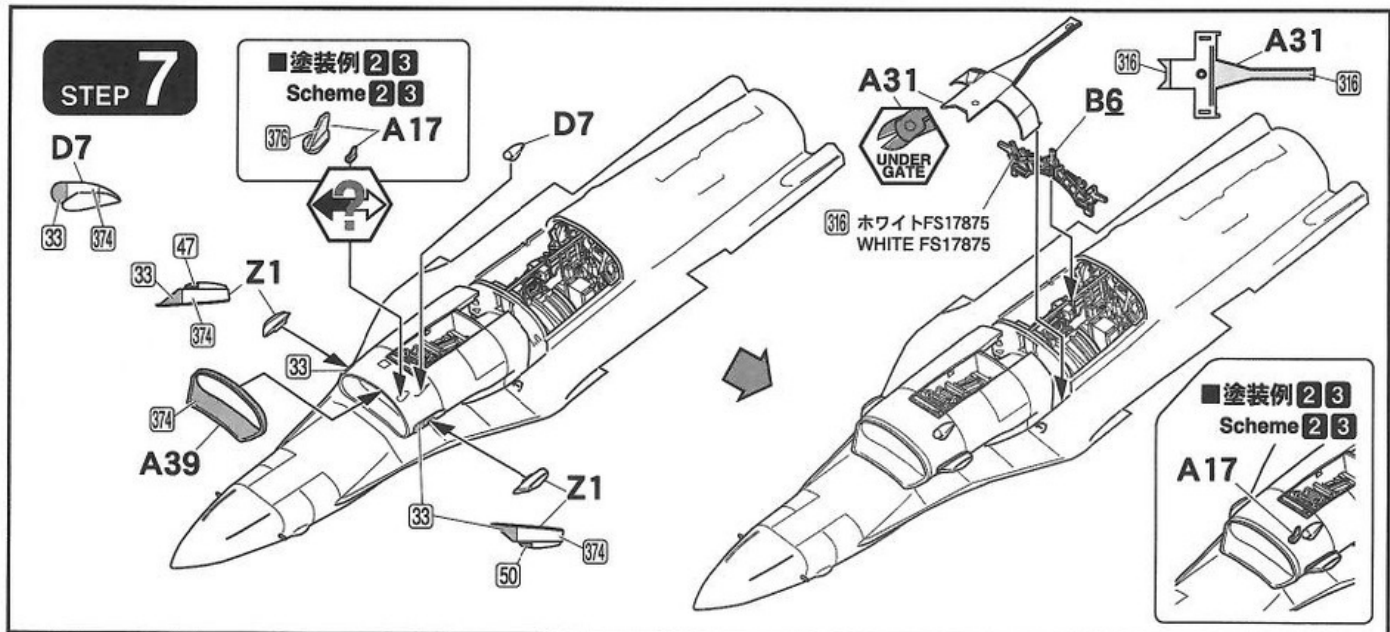


STEP 6



DETAIL OPTION UP 別売パーツ Option parts AA53

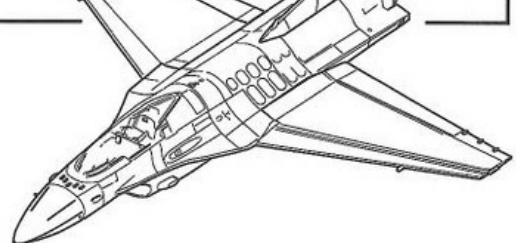




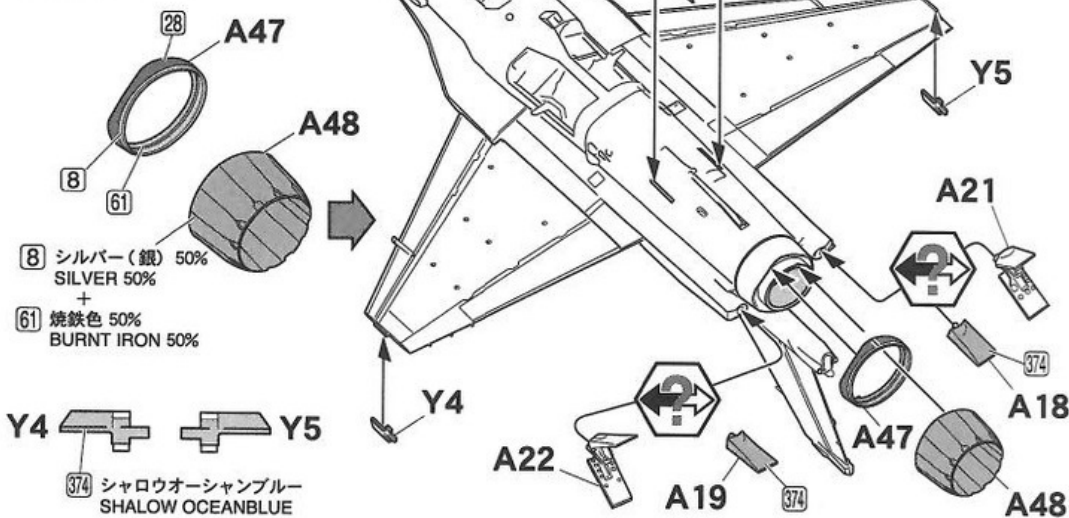
●塗装ガイド Painting

ここまで組み立てた段階で、巻末の「塗装とマーキング」を参考に機体全体を塗装をします。スプレー・エアブラシ等の吹き付け塗装の際は、塗装済み箇所をマスキングしてください。

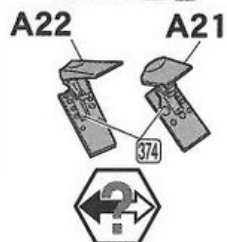
At this point, you should paint the entire aircraft using the "Painting and marking" shown at the end of this instruction. If you are employing spray paints or airbrushes, then mask portions that have already been painted previously.



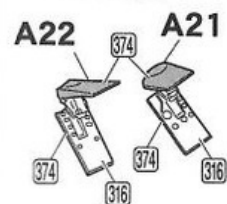
STEP 10



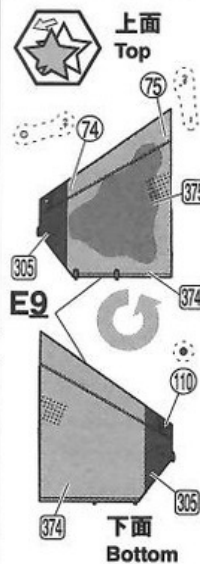
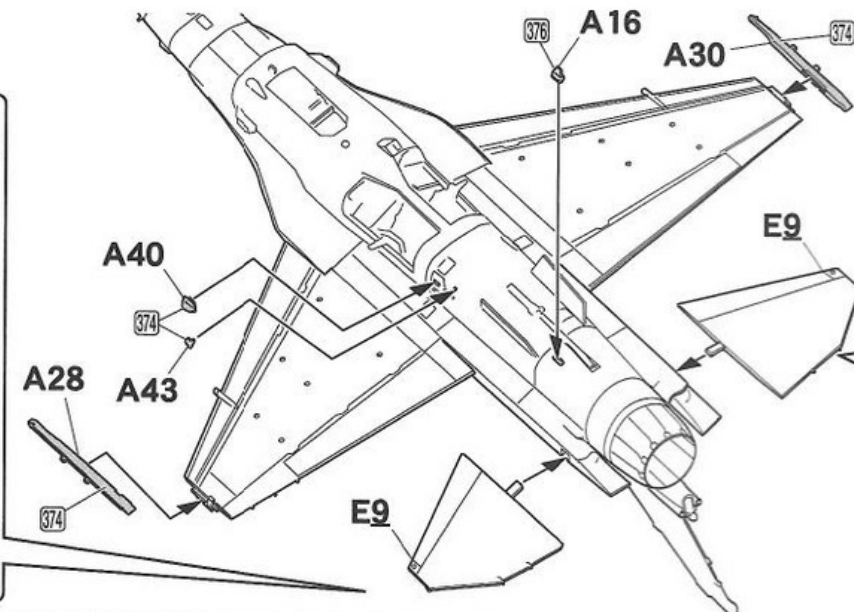
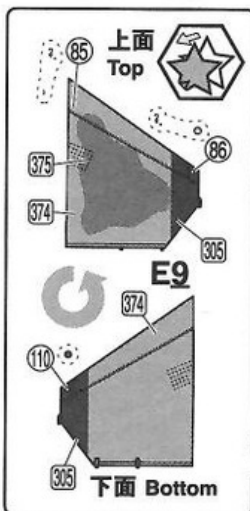
■塗装例 1 3 Scheme 1 3



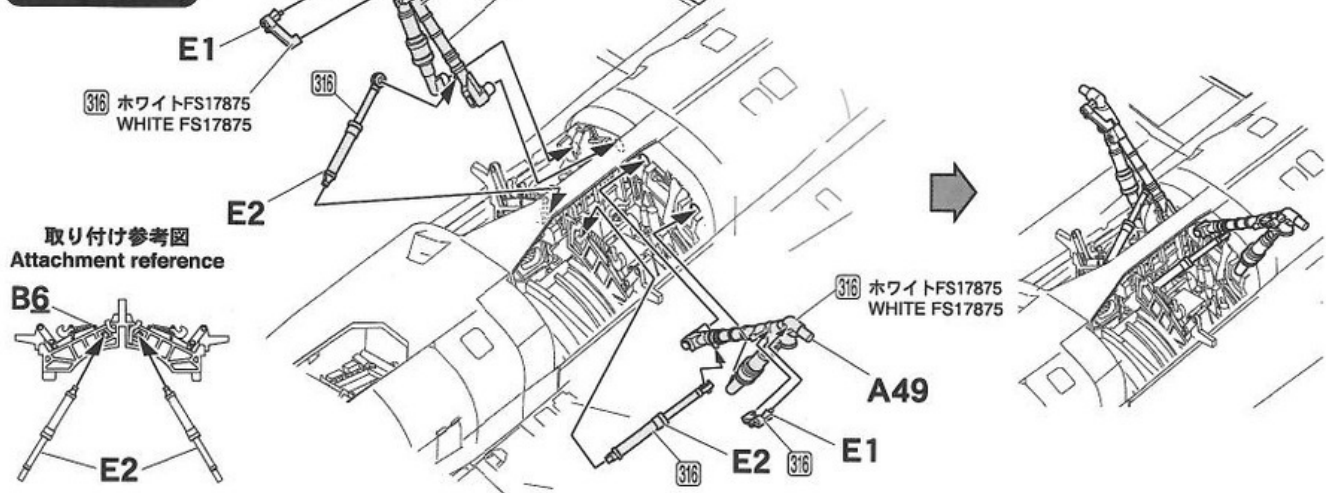
■塗装例 2 Scheme 2



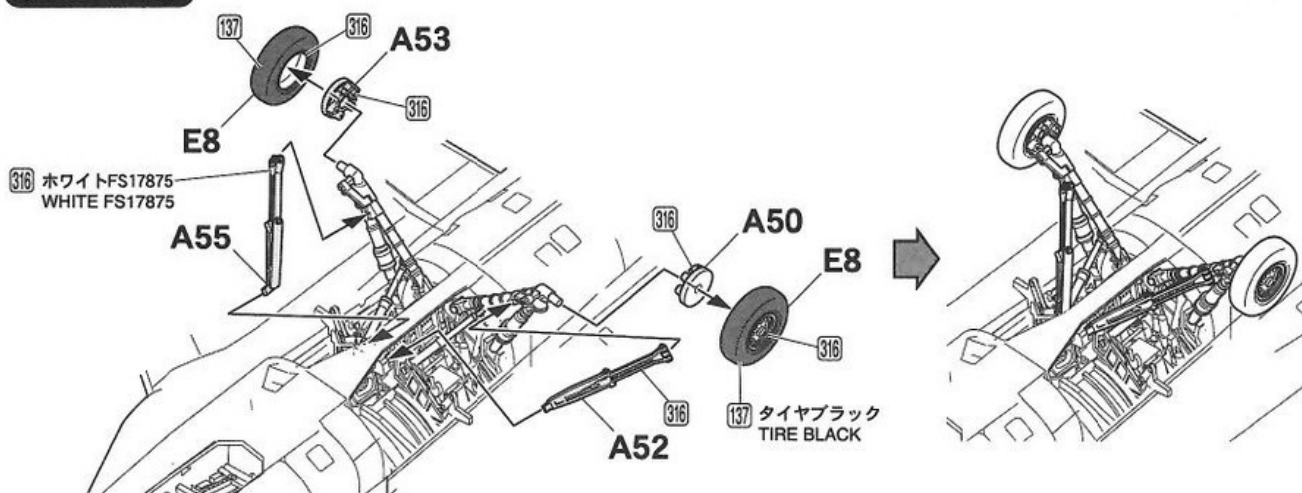
STEP 11



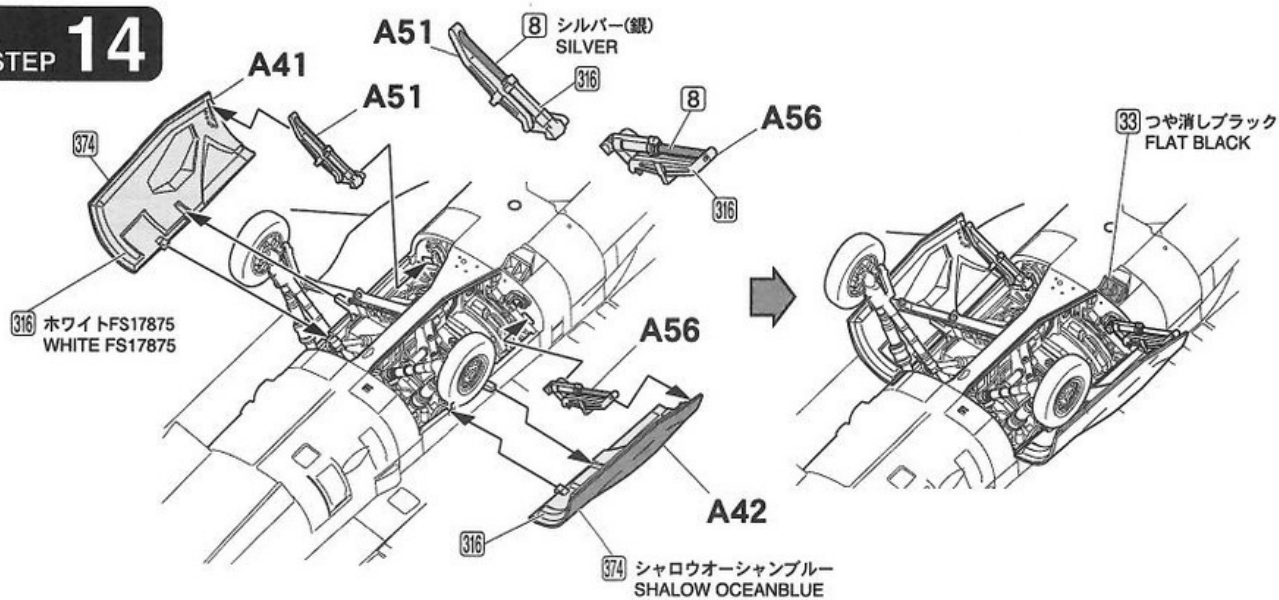
STEP 12



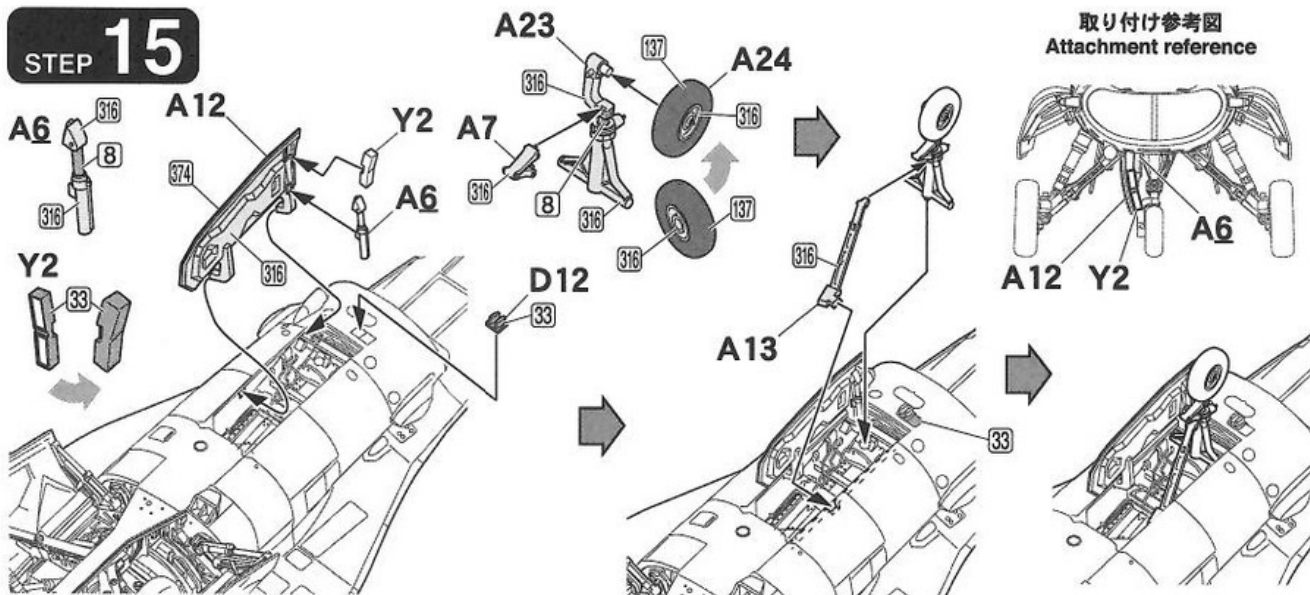
STEP 13



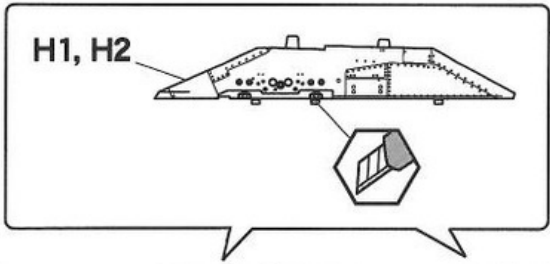
STEP 14



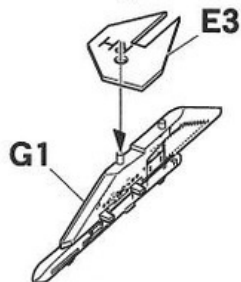
STEP 15



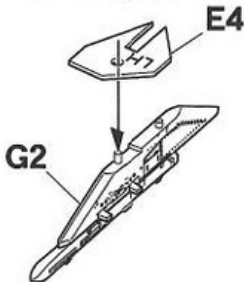
STEP 16



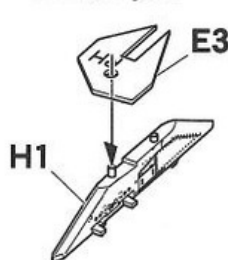
STA-8 パイロン
STA-8 Pylon



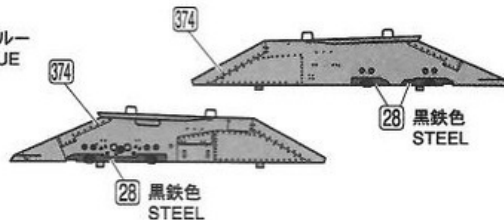
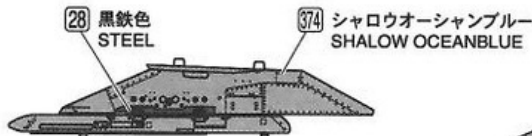
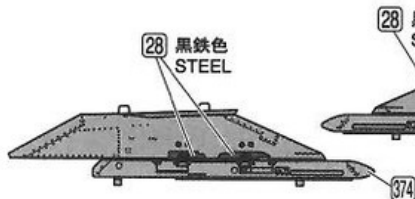
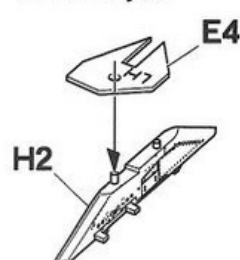
STA-4 パイロン
STA-4 Pylon



STA-9 パイロン
STA-9 Pylon

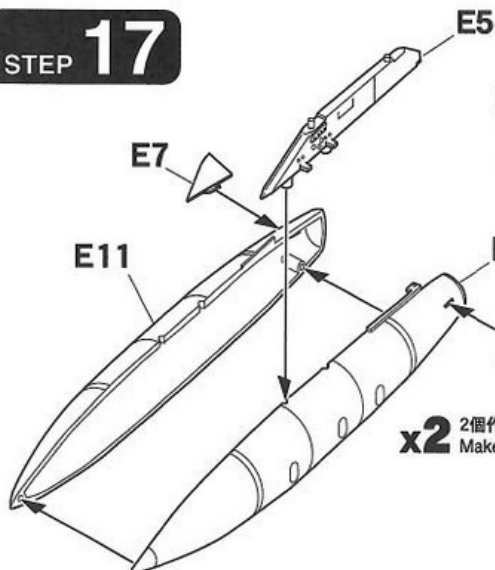


STA-3 パイロン
STA-3 Pylon



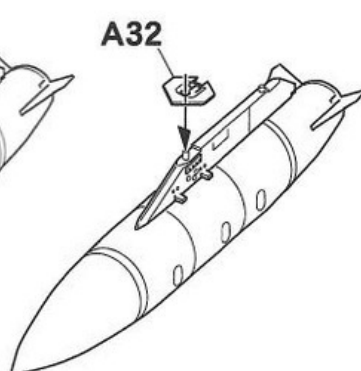
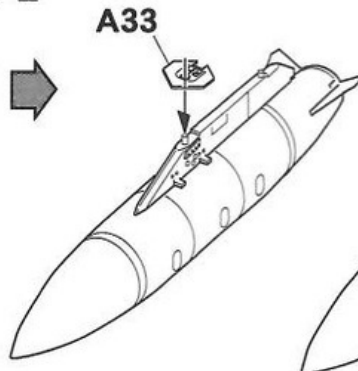
STEP 17

取り付け参考図
Attachment reference

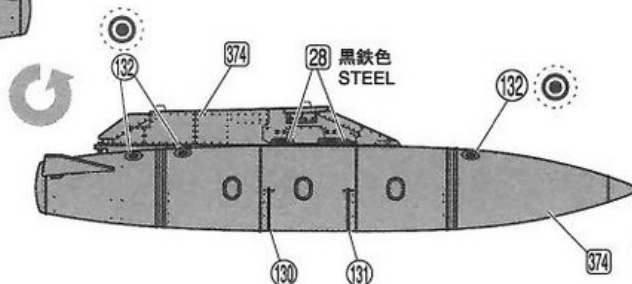
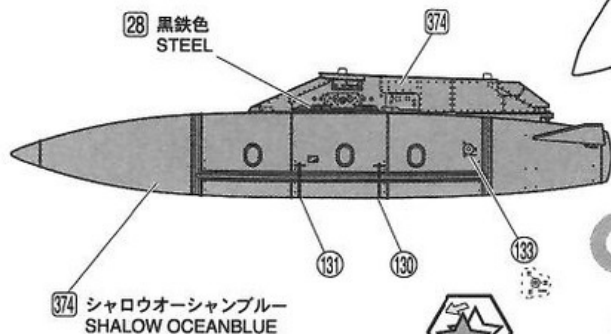


燃料タンク 《R》
Fuel tank 《R》

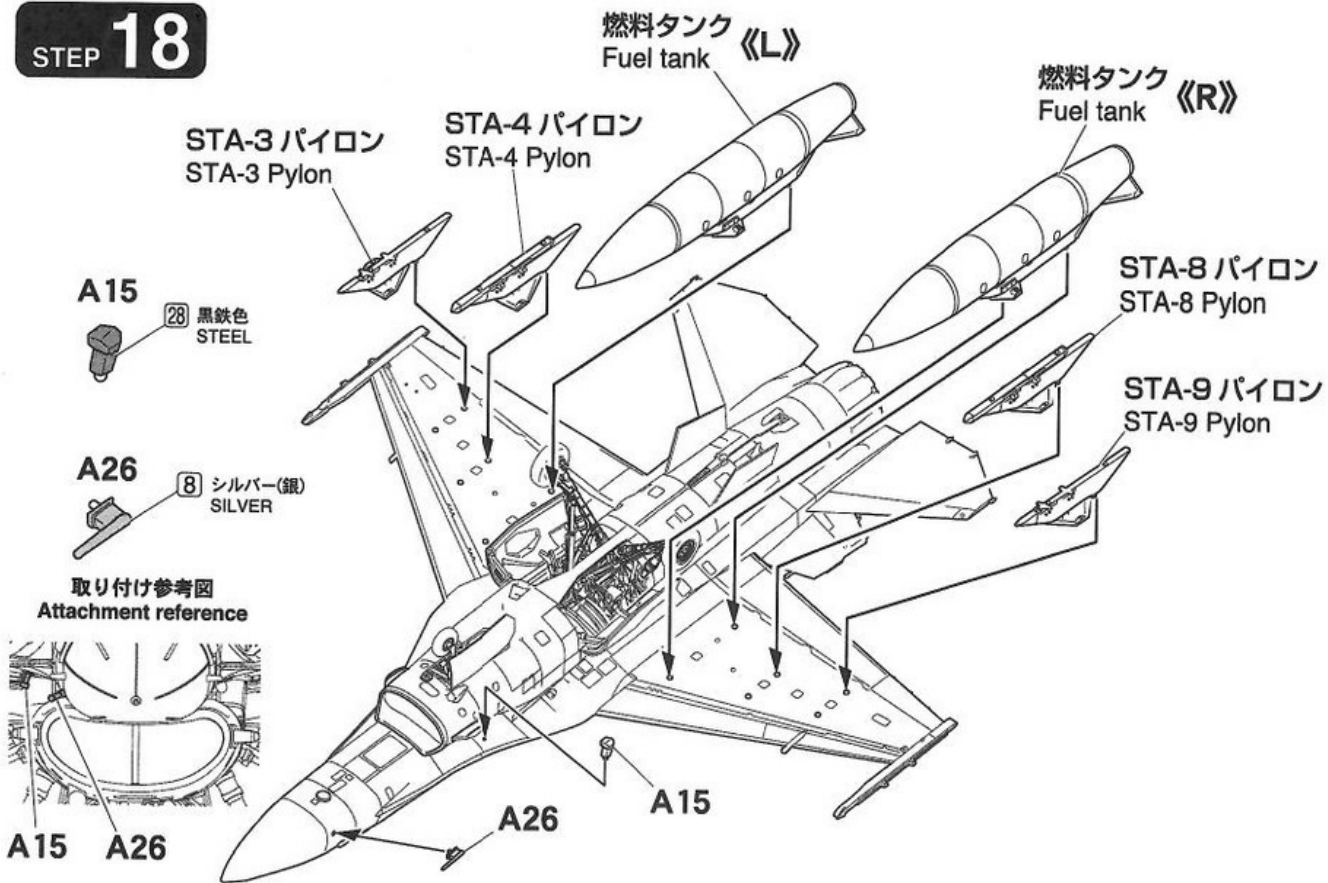
燃料タンク 《L》
Fuel tank 《L》



x2
2個作ります
Make 2 pieces



STEP 18



OPTION



ASM-2

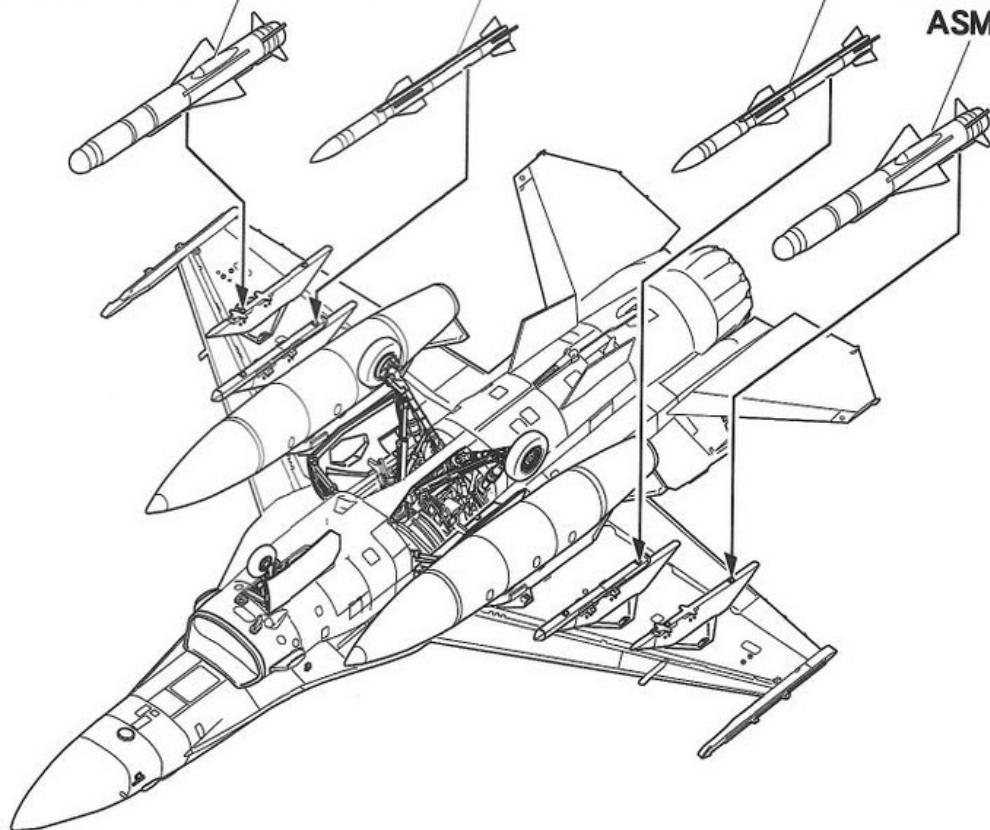
別売パーツ
Option parts
FP39

AAM-4

AAM-4

別売パーツ
Option parts
FP39

ASM-2



OPTION



別売パーツ
Option parts
FP39
AAM-3

AIM-7M

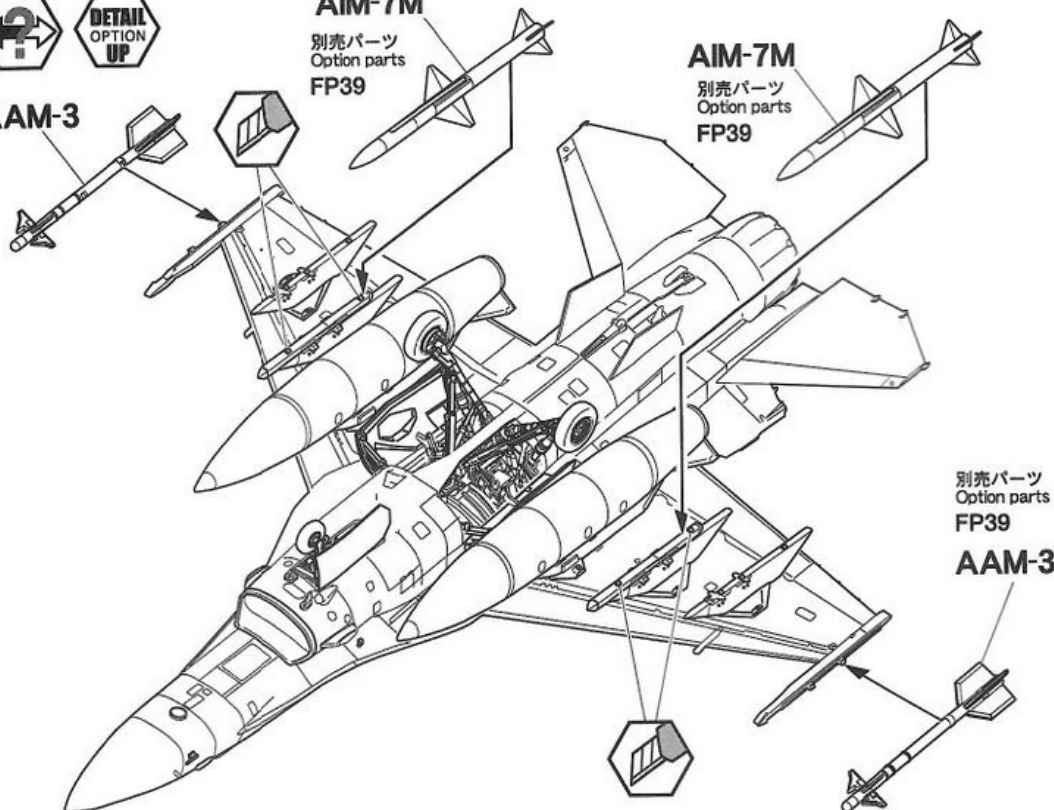
別売パーツ
Option parts
FP39

AIM-7M

別売パーツ
Option parts
FP39

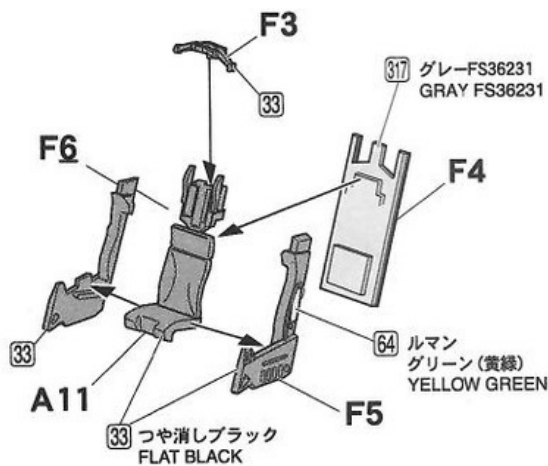
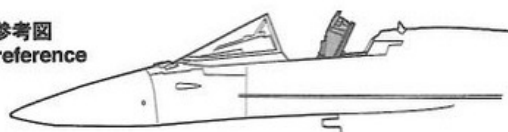
別売パーツ
Option parts
FP39

AAM-3



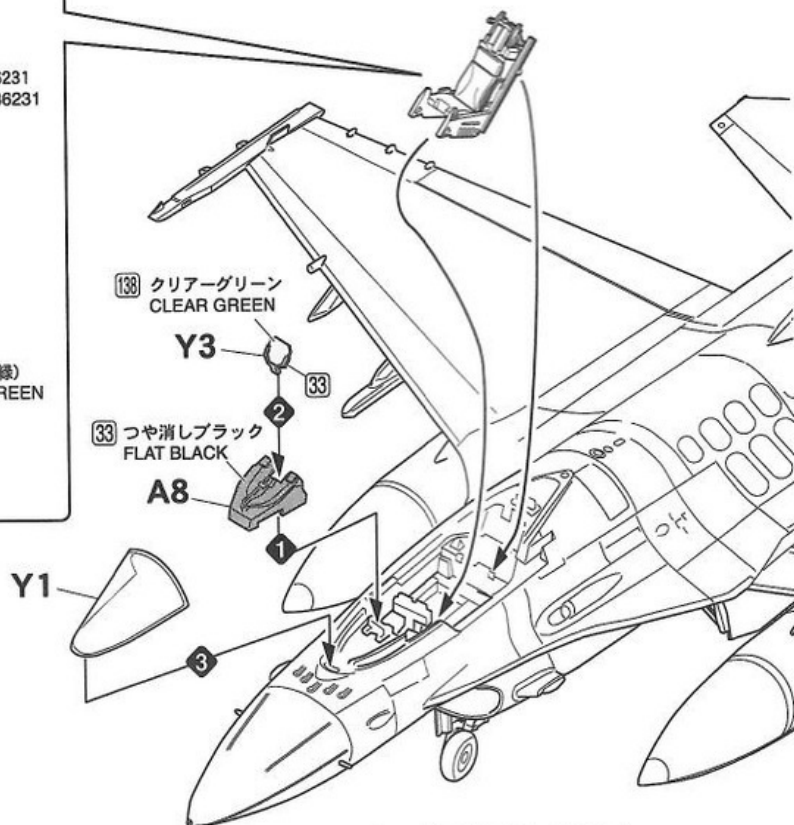
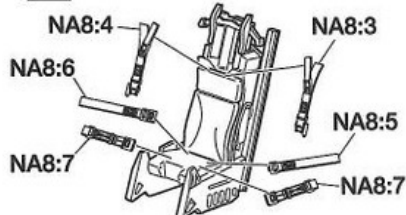
STEP 19

取り付け参考図
Attachment reference



DETAIL
OPTION
UP

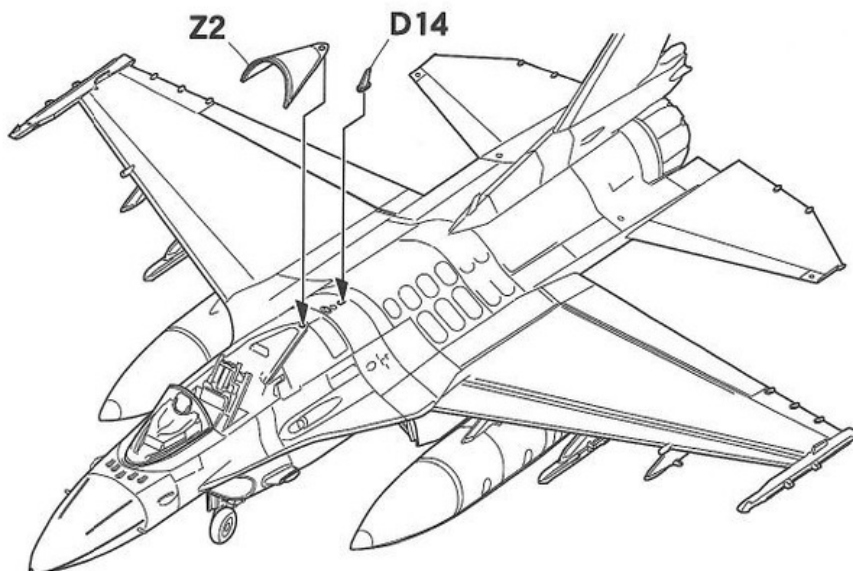
別売パーツ
Option parts
NA8



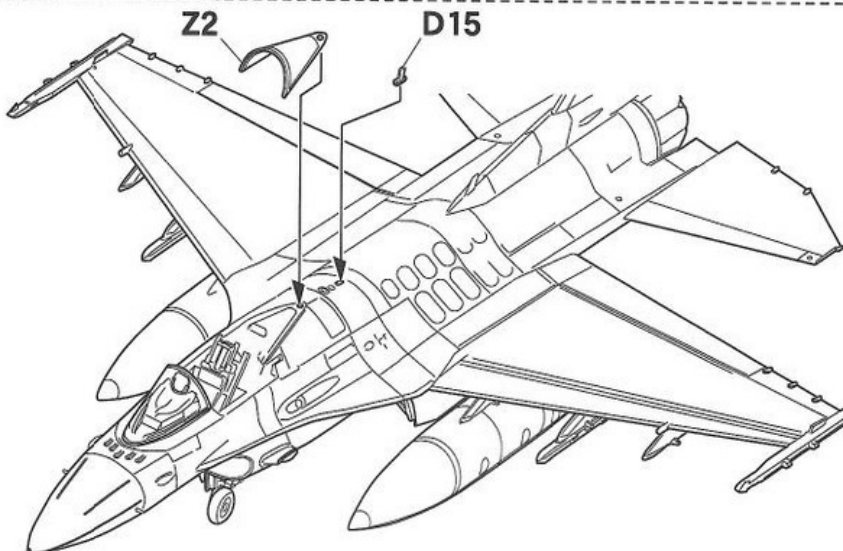
※❶から❷の順に取り付けます
Install in the order from ❶ to ❷.

STEP 20

■ 塗装例 1 Scheme 1



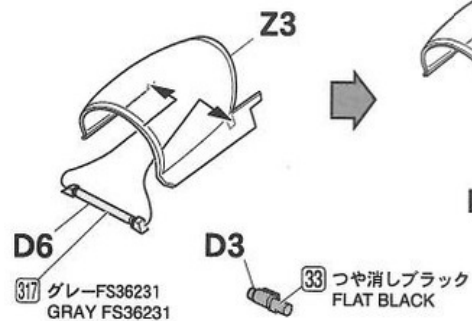
■ 塗装例 2 3 Scheme 2 3



STEP 21

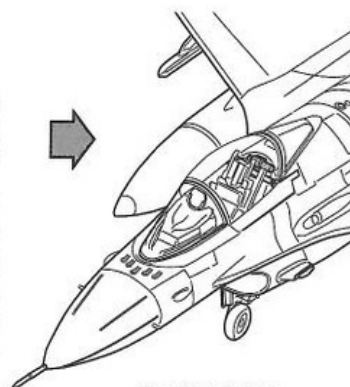


風防閉状態 Canopy closed

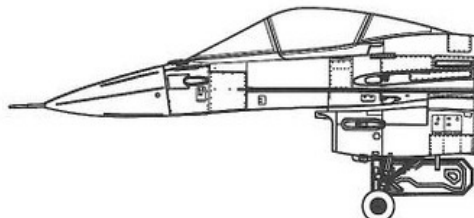


A27

別売パーツ
Option parts
AA53



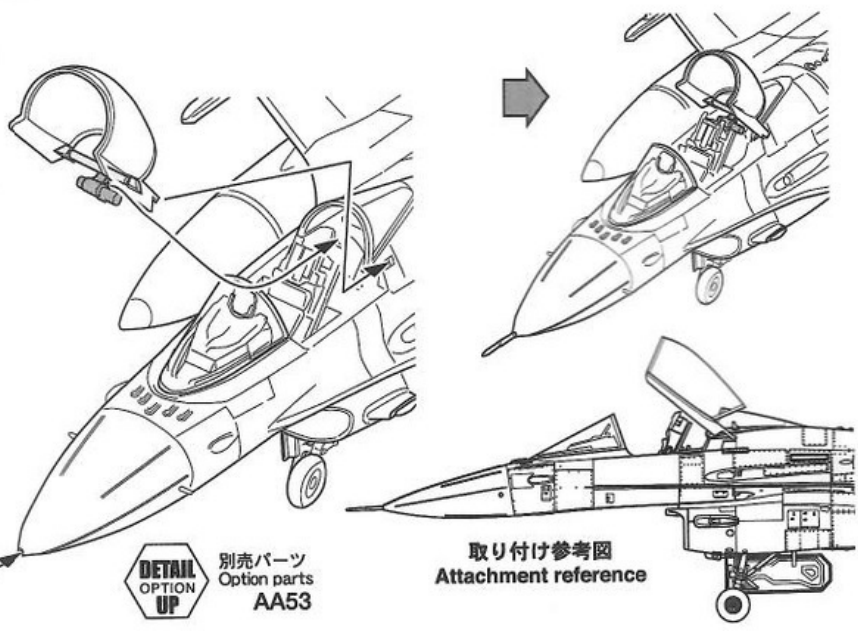
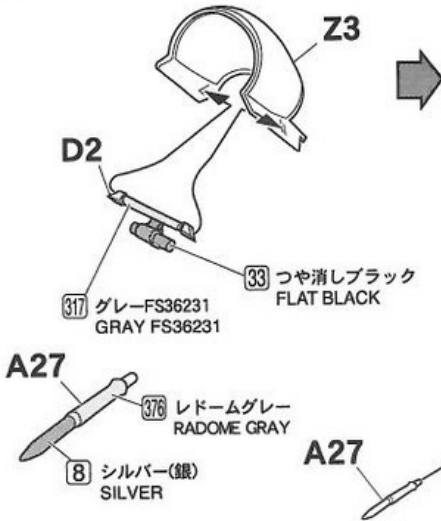
取り付け参考図
Attachment reference



STEP 22



風防開状態
Canopy opened



取り付け参考図
Attachment reference

カラーナンバー対応表 Color Reference

※近似色での表示です

GS/Kレオス・Mカラー (□数字)	GS/Kレオス・水性カラー	GS/Kレオス・アクリジョン	タミヤカラー (アクリル・エナメル)	タミヤカラー (ラッカー)	ガイアノーツ・ガイアカラー	English
1 ホワイト (白)	H1 ホワイト (白)	N1 ホワイト (白)	X2 ホワイト	LP2 ホワイト	001 ピュアホワイト	Gloss White
8 シルバー (銀)	H8 シルバー (銀)	N8 シルバー (銀)	X11 クロームシルバー	LP11 シルバー	009 ブライトシルバー	Silver
23 ダークグリーン (2)	H73 ダークグリーン	N73 ダークグリーン	XF58+XF62	LP56 ダークグリーン2		Dark Green
28 黒鉄色	H18 黒鉄色	N18 黒鉄色	X10 ガンメタル		020 ガンメタル	Gun Metal
33 つや消しブラック	H12 つや消しブラック	N12 つや消しブラック	XF1 フラットブラック	LP3 フラットブラック	012 フラットブラック	Matt Black
47 クリアーレッド	H90 クリアーレッド	N90 クリアーレッド	X27 クリヤーレッド	LP52 クリヤーレッド	041 クリアーレッド	Clear Red
50 クリアーブルー	H93 クリアーブルー	N93 クリアーブルー	X23 クリヤーブルー	LP68 クリヤーブルー	044 クリアーブルー	Clear Blue
61 焼鉄色	H76 焼鉄色	N76 焼鉄色	XF7+XF56			Burnt Iron
64 ルマングリーン (黄緑)	H16 イエローグリーン (黄緑)	N16 イエローグリーン (黄緑)				Yellow Green
92 セミグロスブラック			X18 セミグロスブラック	LP5 セミグロスブラック	022 セミグロスブラック	Semi Gloss Black
137 タイヤブラック	H77 タイヤブラック	N77 タイヤブラック	XF85 ラバーブラック	LP65 ラバーブラック	075 ニュートラルグレーV	Tire Black
305 グレー FS36118			XF63+XF66			FS36118
316 ホワイト FS17875				LP35 インシグニアホワイト	071 ニュートラルグレーI	FS17875
317 グレー FS36231						FS36231
374 シャロウオーシャンブルー						FS35109
375 ディープオーシャンブルー						FS35045
376 レドームグレー						FS26231

部品を破損・紛失された際は

紛失・破損などにより部品を請求される方はランナー(枠)単位で有償にてお分けいたします。下記の部品請求カード(コピー可)の必要ランナー名を○で囲みます。代金(消費税・送料込)を右記お支払い方法からお選びいただき、当社アフターサービス係(宛先は右下記載)までお申し込みください。いずれのパーツも本カード1枚につき1キット分に限らせていただきます。製品はその仕様もしくは価格を予告無く変更することがございます。

ご注文とお支払い方法

●「定額為替」「現金書留」「銀行振込」にてご送金の場合

左下欄の部品請求カード(コピー可)の必要ランナー名を○で囲み、お名前・ご住所・電話番号を書き添えたメモを同封いただき、定額為替、現金書留の場合は共に郵送してください。郵便振替または銀行振込にてお支払いの場合は、部品請求カードとお振込(予定)日・お振込人名を別途郵送ください。

郵便振替の場合は払込用紙の通信欄に「製品番号、品名、ランナー名(部品種)、数量」をご記入ください。ご入金を確認でき次第発送いたします。為替手数料あるいは振込手数料、送料はお客様にてご負担ください。切手での送金はお受けできません。ご了承ください。

●代金引換(到着時にお支払い)にてご注文の場合

部品請求カード記載のパーツ代金に代引き手数料300円を加算した金額がお支払いの総額となります。ご希望の製品番号と製品名・部品番号とお届け先・お電話番号をファックスでお知らせください。ご注文時にいただいたお客様の個人情報は当該商品の発送および発送記録確認以外の目的には用いない事をお約束いたします。

■郵便振替口座:

00840-2-21475
加入者名:
(有)ファインモールド

■銀行振込口座:

三菱UFJ銀行 豊橋支店
普通 5369261
(有)ファインモールド

有限会社ファインモールド

〒441-3301
愛知県豊橋市老津町坊53-2
TEL:0532-23-6810 FAX:0532-23-6811
※お電話でのお問い合わせ対応時間:
土・日・祝夏期および年末年始の休業日を除く
午前9時30分~午後5時30分

インターネットホームページ
<http://www.finemolds.co.jp>

© Fine Molds Made in Japan



◆部品請求カード 2023年8月現在

No. FP48 航空自衛隊 F-2A

A	¥1000	H	¥400
B	¥500	Y	¥500
C	¥500	Z	¥400
D	¥500	ボルト&ナット	¥400
E (1枚)	¥500	デカール	¥750
F	¥400	説明書	¥500
G	¥400		

Use Only in Japan

塗装とマーキング

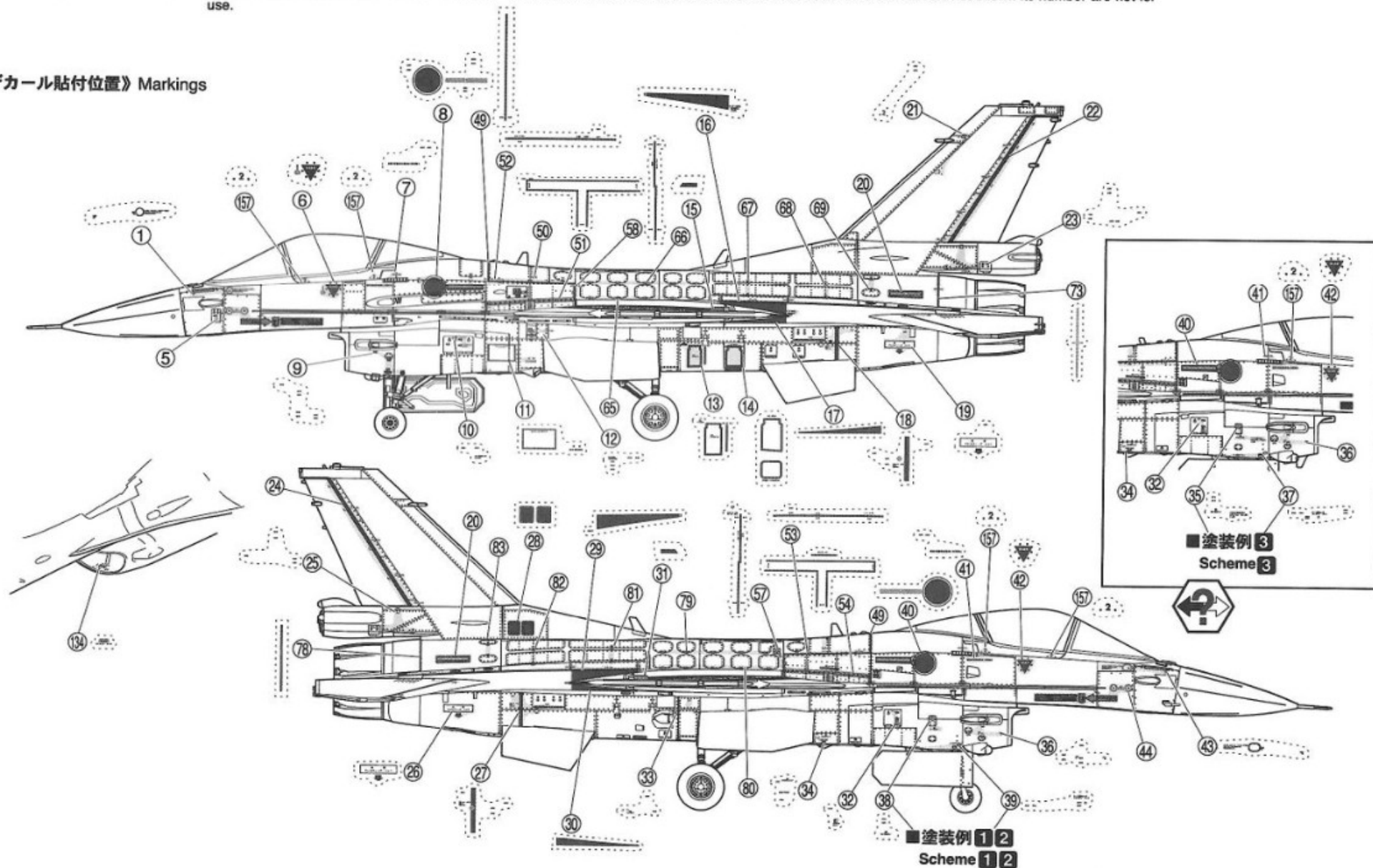
Painting & Marking

塗装色はGSIクレオスMr.カラーの色番号を□内の数字で、続けて色名を指示しています。○で囲まれた数字は付属デカール(水転写シール)の番号です。水性ホビーカラーや新水性カラー アクリジョン、タミヤカラー、ガイアカラーをご使用の場合はP16のカラーナンバー対応表を参考にしてください。

※細部の塗装は組立図中の説明を参考に、また個別のマーキングはP19とP20の各塗装例もご参考ください。表記の無いデカールは使用しません。

Boxed numbers refer to GSI Creos "Mr. Color" paint color numbers. Circled numbers refer to decal numbers. Decals not shown its number are not for use.

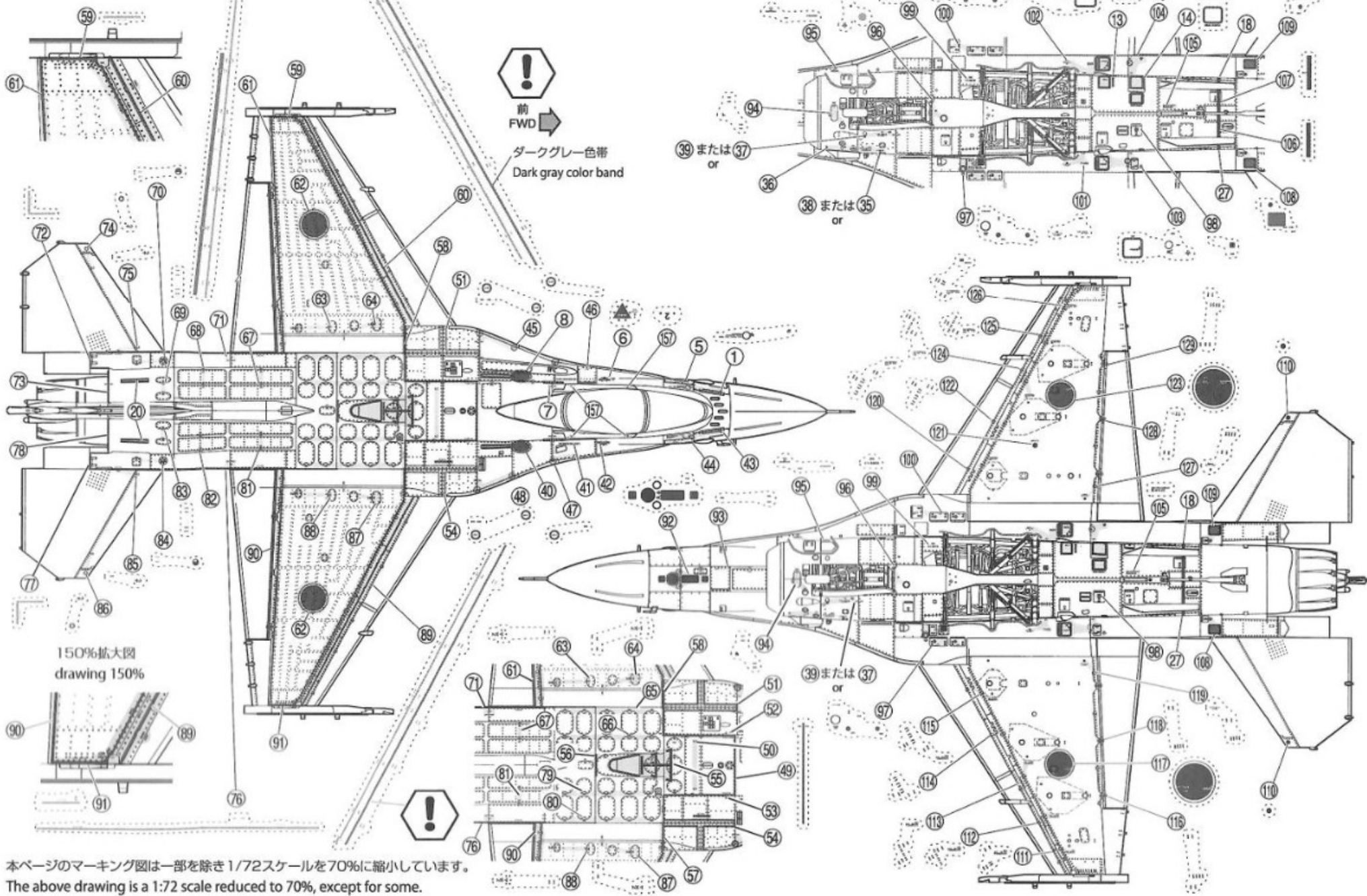
《デカール貼付位置》Markings



本ページのマーキング図は1/72スケールを80%に縮小しています。
The above drawing is a 1:72 scale reduced to 80%.

150%拡大図
drawing 150%

《デカール貼付位置》 Markings



! 前 FWD
Dark gray color band

39 または 37
or

38 または 35
or

39 または 37
or

!

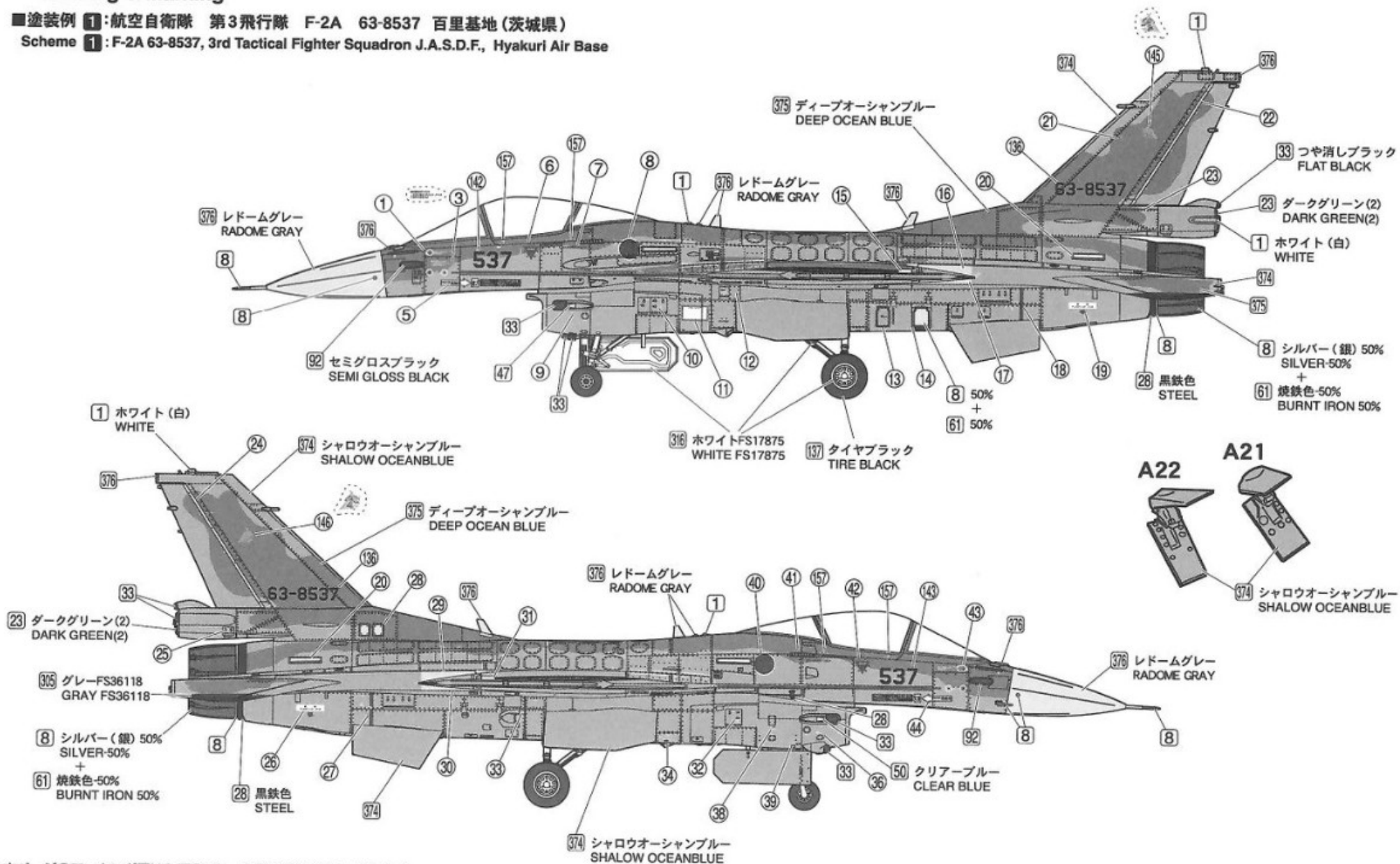
本ページのマーキング図は一部を除き 1/72スケールを70%に縮小しています。
The above drawing is a 1:72 scale reduced to 70%, except for some.

塗装とマーキング

Painting & Marking

■機体色: 374 シャロウオーシャンブルー SHALLOW OCEANBLUE
 375 ディープオーシャンブルー DEEP OCEAN BLUE
 376 レドームグレー RADOME GRAY
 316 ホワイトFS17875 WHITE FS17875

■塗装例 1: 航空自衛隊 第3飛行隊 F-2A 63-8537 百里基地(茨城県)
 Scheme 1: F-2A 63-8537, 3rd Tactical Fighter Squadron J.A.S.D.F., Hyakuri Air Base

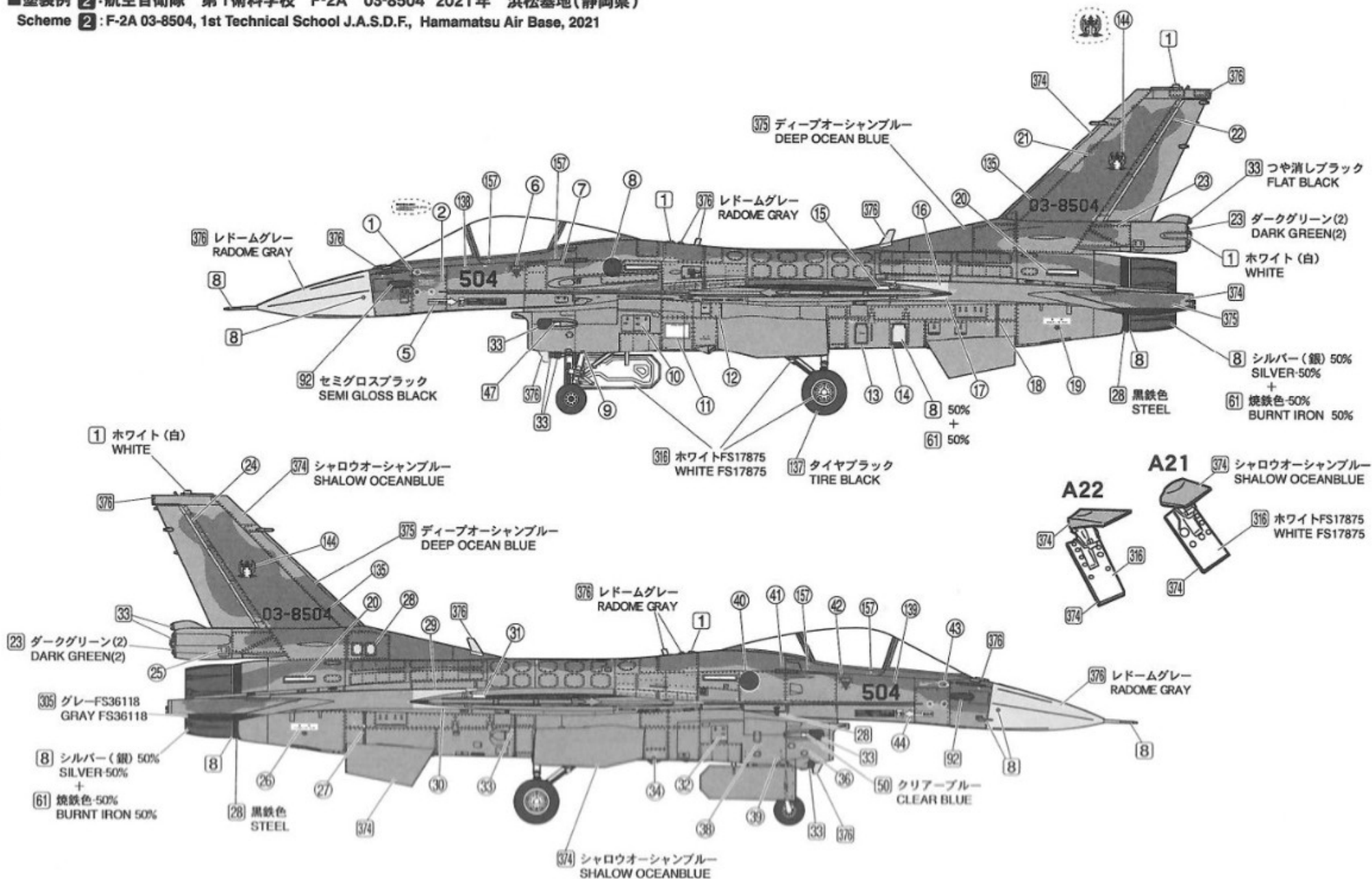


FP48 航空自衛隊 F-2A 機体 P17

本ページのマーキング図は1/72スケールを80%に縮小しています。
 The above drawing is a 1:72 scale reduced to 80%.

■塗装例 2: 航空自衛隊 第1術科学校 F-2A 03-8504 2021年 浜松基地(静岡県)

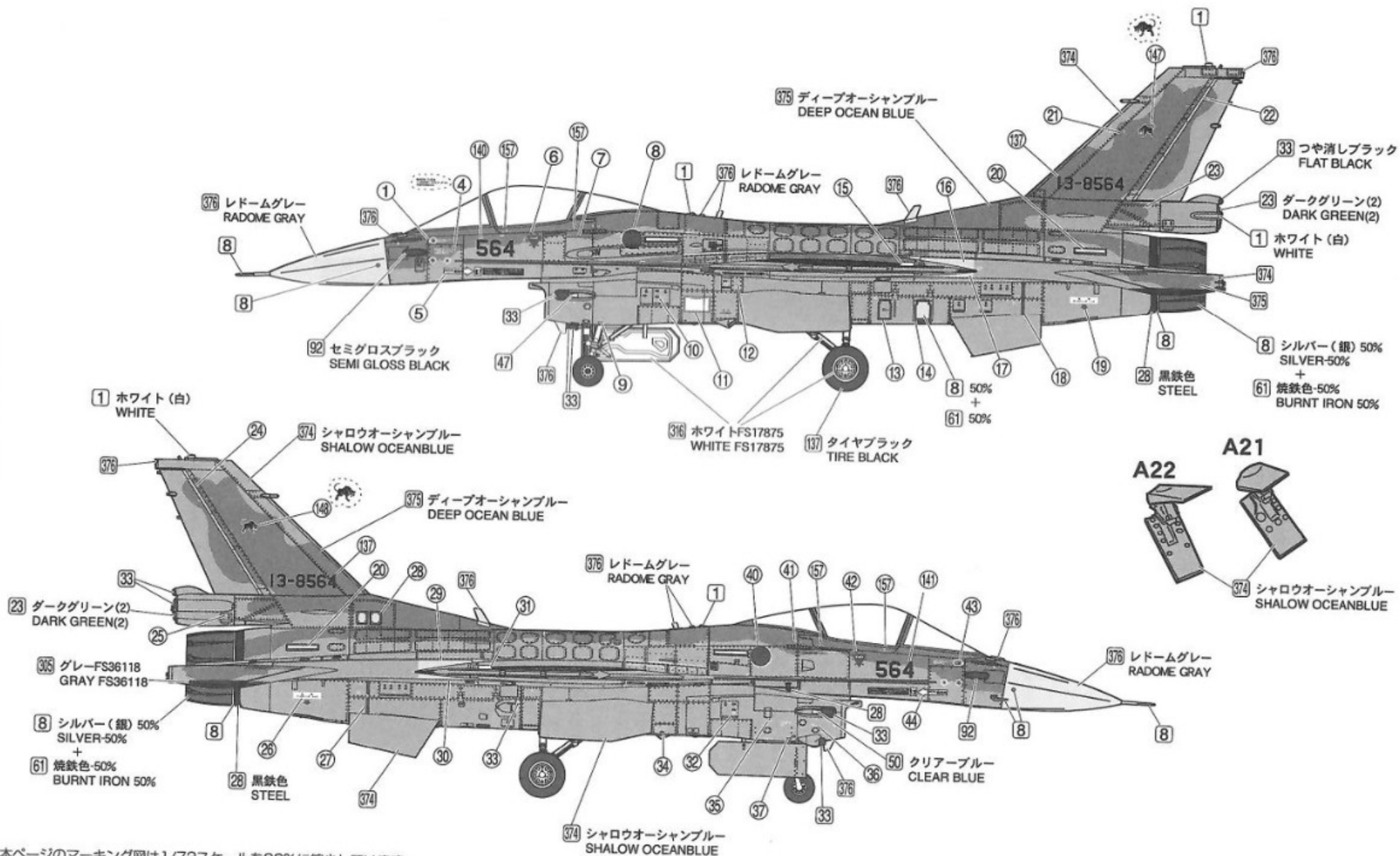
Scheme 2: F-2A 03-8504, 1st Technical School J.A.S.D.F., Hamamatsu Air Base, 2021



本ページのマーキング図は1/72スケールを80%に縮小しています。

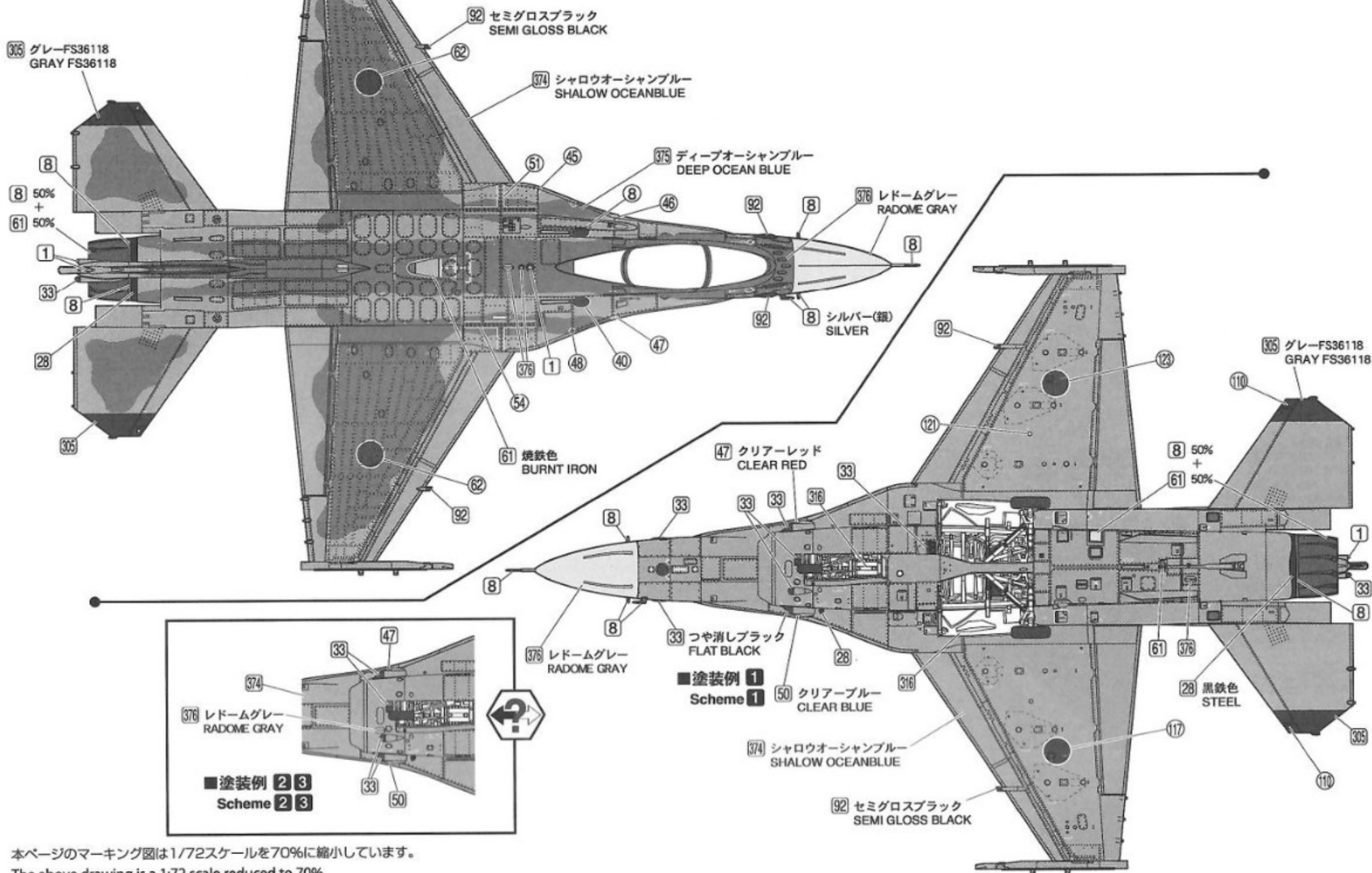
The above drawing is a 1:72 scale reduced to 80%.

■塗装例 ③: 航空自衛隊 第8飛行隊 F-2A 13-8564 築城基地(福岡県)
 Scheme ③: F-2A 63-8537, 8th Tactical Fighter Squadron J.A.S.D.F., Tsuiki Air Base,



本ページのマーキング図は1/72スケールを80%に縮小しています。
 The above drawing is a 1:72 scale reduced to 80%.

■塗装例 1 2 3
Scheme 1 2 3



F-2A 航空自衛隊 F-2A 機体 P20

本ページのマーキング図は1/72スケールを70%に縮小しています。
The above drawing is a 1:72 scale reduced to 70%